



たどくのひろば

(<https://tadoku.info>)



はじめに

この本^{ほん}は、ウェブサイト「たどくのひろば」(<https://tadoku.info>)
の読み物^{よもの}の一部^{いちぶ}をまとめたものです。「たどくのひろば」の
ウェブサイトには、社会^{しゃかい}のできごとやおもしろい話^{はなし}、最近話^{さいきんわ}
題^{だい}の話^{はなし}や絵本^{えほん}の紹介^{しょうかい}などいろいろな読み物^{よもの}があります。
この本^{ほん}を読んで興味^{きょうみ}を持^もったら、ぜひ、「たどくのひろば」
のウェブサイトを見^みてください。

多読^{たどく}は、自分^{じぶん}の興味^{きょうみ}のある読み物^{よもの}をたくさん読んで、
日本語^{にほんご}の力^{ちから}をのばすことです。上手^{じょうず}に泳^{およ}げるようになりた
い人は、泳^{およ}ぐ練習^{れんしゅう}をたくさんします。それと同じです。日本^{にほん}
語^ごで上手^{じょうず}に読^よめるようになるために、たくさん日本語^{にほんご}の読^よ
み物^{もの}を読^よんでください。

「たどくのひろば」が、みなさんの日本語^{にほんご}力^{りょく}向上^{こうじょう}の助け^{たす}
になるを祈^{いの}っています。

著作権について

この本の読み物の著作権は、作品を書いた人（著者）
にあります。しかし、著者に許可をとらなくても、この本の読
み物をコピーして使ったり、自分で内容を変えたりできま
す（二次使用といいます）。売ることはできません。

二次使用するときは、出典として著者の名前と「たどく
のひろば」と書いてください。

例) 出典: 山田花子 (「たどくのひろば」より)



この本の作品は全てクリエイティブ・コモンズ 表示・非営利・継承4.0国際ライセンスで提供されています。

All works in this book are licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.

げんだいしゃかいさいこう
もくじ：現代社会再考

にほん もり 日本の森	… 7
もり き き 森の木を切らないで	… 12
がいこくご み むずか 外国語を身につけることは難しいか	… 17
にほんご にほんぶんか しゅうかん 日本語だけでなく、日本の文化や習慣も!	… 20
にい お兄ちゃんがしゃべったよ!	… 25
こ きょういく おとな しごと 子どもたちに教育を・大人たちに仕事を	… 31
びき こ にほんいえ 3匹の子ブタと日本の家	… 37
にほん いえ ひつよう 日本にレンガの家は必要か?	… 42
メディアとわたし わたし	… 47
あたなににとってスマホとは何か なに	… 51
キャッシュレス社会 しゃかい	… 55
じどううんてんしゃ 自動運転車	… 59
ぜんあく 善と悪のバイク	… 63
さいがい 災害とバイク	… 67

もくじ : 日本語^{にほんご}ちょっとストーリーズ

わる ^{むし} 悪い虫?	… 73
495	… 77
じ ^{かん} ^{こうかん} 時間と交換	… 80
たい ^わ 対話とは	… 84
ふ ^し ^ぎ ^{めがね} 不思議な眼鏡	… 88
ゆめ ^み 夢を見る	… 92
かこさとしの STEAM ^{えほん} 絵本	… 97
のろのろ ^{きょうそう} 競争	… 103
はじ ^よ 始め良ければすべて良し	… 106
Email アドレスはもう一つの ^{ひと} 名前 ^{なまえ}	… 110
じ ^{てんしゃ} 自転車のジョティさん	… 112
バンクシーのいたずら	… 116

げんだいしゃかいさいこう 「現代社会再考」について

げんだいしゃかいさいこう しゃかいもんだい ぶん か しゅうかん か がくぎ
「現代社会再考」は、社会問題や文化・習慣・科学技

じゆつ しゃかい かんが か よ
術のことなど社会のことが考えられるように書かれた読

もの にん ちよしゃ よ もの
み物です。7人の著者がそれぞれのテーマで4つの読み物

か ほん よ もの はい
を書きました。この本には、4つのうち、2つの読み物が入っ

ています。のこりは「たどくのひろば」のウェブサイトにある

ので、続きを読みたい人はウェブサイトを見てください。

ほん さいご ちよしゃ しょうかい
この本の最後にそれぞれの著者の紹介があります。

ちよしゃ 【テーマと著者】

もり い さ さ き み ず え
「森は生きている」・・・佐々木瑞枝

げんご ぶん か ひと にしぐちこういち
「言語と文化と人」・・・西口光一

ひんこん だっきやく おくの ゆ き こ
「貧困からの脱却」・・・奥野由紀子

にほん いえ まつだまきこ
「日本の家」・・・松田真希子

かどくらまさみ
「メディア・リテラシー」・・・門倉正美

さ さ き りょうぞう
「テクノロジー」・・・佐々木良造

しゃかい よしかわとおる
「バイクと社会」・・・吉川達

もり い
「森は生きている」

にほん もり
日本の森

ささき みずえ
佐々木 瑞枝



わたし いま ながの けんたてしなこうげん なか なつ
私たちが今いるのは、長野県蓼科高原の中にある夏
べっそう もり なか わたし りゅうがくせい にほん
の別荘、1500m の森の中です。私は留学生たちに日本
ご にほんぶん か しどう だいがくきょうじゅ りゅうがくせい
語や日本文化を指導している大学教授、留学生たちと
いっしょ たてしな なつやす
一緒に蓼科のヴィラで夏休みをすごしています。

「先生、涼しい！ 東京から来ると別の国に来たみたい」

とディエゴ。連日30度を超える都会のコンクリートジャングルから、私たちは僅か3時間弱でどこまでも森が広がる小川のせせらぎ、小鳥たちのさえずりが聞こえる別荘地に着いたのです。

日本の国土の67%は森が占めている、数字では知っていても、「森に行ったことがない」という日本人の声をよく聞きます。まして留学生たちは、ほとんど都会・小都会で生活し、日本を理解したつもりになって帰国してしまっています。

実は日本の森は南はマングローブの森が続く沖縄西表島、北はエゾマツの林が続く北海道、そして温暖な日本の大部分に広がる広葉樹、ブナ、ナラ、クリなど様々な姿の森が日本の環境を守り、日本人そのものを支えてきたといっても過言ではないのです。

しかし、日本は明治時代以来、近代化、都市化、合理化の道をたどることで「豊かな社会が築ける」と信じてきました。その結果、物質的には豊かになり、国内・海外どこへでも飛行機や自動車、鉄道で簡単に行けるようになりました。

しかし、残念なことに「森に行く手段」は遠のきました。なぜなら天然林の多くは過疎の村の近くにあることが多く、飛行場はおろか鉄道の駅も高速道路も森の近くにはないからです。

私が蓼科の森に来るには新宿から特急電車で2時間、茅野駅に着いてからはリゾートの森に行く一日3本しかないバスで茅野の街を抜け、田園の広がる里山を抜けて、ぐんぐんと登り、やっとたどり着くのです。

この別荘地は「自然との共生」を念頭に開発されたもので、「森の生き物たちの中に人間が暮らさせてもらう」

のです。ですから木は最小限だけ「切らせてもらおう」、道路
は最小限、車がすれ違える幅だけ「木を切って、道をつく
らせてもらおう」、鹿やうさぎ、リスが道路を横切る時は「森
の間借り人」である人間は待つのが原則です。

こうして660万 m^2 、東京ドーム140個分もの豊かな
森は、「人間が使わせてもらっている」ことで、手入れさ
れ、天然林の形を保っています。

今大切なこと、それは「天然林」を守り、手入れをし、
生態系を守ることです。一度伐採して二次林を植えても、
そこでは生態系は崩れ、鳥や動物も当分の間増えません。

「天然林」を維持できなくなっている過疎の村にもっと
助成をしていかないと、日本の森は消滅の一途をたどり、
生態系も崩れ、コンクリートやアスファルトに覆われた島国
になってしまうかもしれないのです。

注1) 国土の67%が森林といっても、その40%は人工林の針葉樹林であり、それらは木造建築や木造の内装を多くすることで、放置された人工林も手入れされることになる。

注2) 「自然保護」：プリザベーション(放置)、プロテクション(防衛)、コンサベーション(保全)、リストラクション(復元)、リハビリテーション(再生)。地域によって目的をもって、森の維持を行うべきで、そのためには人出もいるし予算を必要とする。国家的なプロジェクトが必要である。

もり い
「森は生きている」
もり き き
森の木を切らないで
ち きゅうおんだん か
—地球温暖化をストップしてくれるんだよ!—

さ さ き みず え
佐々木 瑞枝



ち きゅうぜんたい へいきん き おん き
「地球全体の平均気温があがっている」という気にな
るニュースを、みな き き おも ち きゅう
皆さんも聞いたことがあります。地球
は 20 世紀後半になってから すすこ き おん あ つづ
は 20 世紀後半になってから少しずつ気温が上がり続けて

いるのです。これを「地球温暖化現象」と言います。地球の温暖化によって、氷河の氷が溶けたり海面が上昇したり、熱波などの異常気象が起きたりしています。

ではなぜ、「地球温暖化現象」は起きるのでしょうか？

それは「石油」や「石炭」などの「化石燃料」と言われるものを使うことで、空気中に「二酸化炭素」(CO₂)が増えて行くからなのです。

この「二酸化炭素」を吸収してくれるもの、それが「森」です。日本の森は一年間に0.7億トンのCO₂を吸収して(食べて)れています。

「森」という漢字は「木」を三つ書きますが、森のパワーは木の三倍よりずっと多くの力を持っています。それは森が空気中の二酸化炭素を食べるように森の中に取り込み、「炭素」という形で木の中で蓄えてくれるのです。森の中で枯れた木にも、また土の中にも「炭素」があります。

もり ちから ほんとう おお
森の力は本当に大きいのです。

アスファルトの道路をつくるために木を切り、人間の住
お家やビルを建てるために森を切ってコンクリートの街を
作り、私たちのまわりでも森はどんどん少なくなっています。
特に問題になっているのは熱帯雨林の木が切られている
ことです。そのために「REDD プラス」という取り組みがあ
ります。森の木を守り育て、そして CO2 を少なくすることが
できれば、国際的な資金が得られるというものです。

わたし ちきゅう きおん すこ さ もり
私たちは、地球の気温を少しでも下げるために、森を
大切にしていかなければならないのです。さもないと、沿岸
の国や都市はやがてなくなってしまうかもしれないし、生き
物たちにとっても、地球に住む場所がなくなってしまうかも
しれません。

もり き もり たいせつ まも もり い
森を切らないで！ 森を大切に守りましょう。森は生きて
いるのです。

注1) 「国連気候変動枠組み条約」(UNFCCC) 2016年の「パリ協定」での約束: この条約に加盟している(入っている)国は二酸化炭素の排出量(出す量)を大幅に減らすこと

注2) REDD プラス: REDD(Reduction of Emission from Deforestation and forest Degradation)「途上国における森林現象と森林劣化からの排出削減ならびに森林保全、持続可能な森林管理、森林炭素蓄積の増強」、途上国に対して森林保全を経済的インセンティブを提供することで、森林を伐採するよりも残す方を経済的価値の高いものにしようとする試みです。

げんご ぶんか ひと 「言語と文化と人」

がいこくご しみ 外国語を身につけることはむずかしいか

にしぐち こういち
西口 光一

にほん ちゅうがっこう こうこう ねんかん いじょうえい
日本では、中学校・高校の6年間あるいはそれ以上英
ご べんきょう えいご つか
語を勉強します。しかし、なかなか英語を使えるようになり
ません。ですから、おお多くの日本人は、がいこくご しみ外国語を身につけるこ
とはむずかしいと思っおもています。しかし、それは本当ほんとうでし
ょうか。

えいご た げんご がいこくご
英語やその他のヨーロッパの言語では、「外国語」つま
り「外国の言語」という言い方はしません。「foreign
language」と言います。「foreign language」というのは「聞
いてもわからない言語げんご」つまり「異言語いげんご」ということです。そ
して、じつ実を言うと、ヨーロッパでは、ちか近くの言語を「foreign
language」とは言いません。むしろ、ふる古いギリシャ語やラテ
ン語ごなどの古典語こてんごと対比たいひして、現代語げんだいご（modern

languages)と呼んで、その現代語の中にフランス語やスペイン語やドイツ語や英語などがあります。ロシア語やウクライナ語やポーランド語などは、現代語とは区別してスラブ語系言語 (Slavic languages) と呼ばれます。いずれにせよ、ヨーロッパ内では、お互いの言語を異言語とはあまり見ていません。そして、実際にも、ヨーロッパの人にとって、お隣の言語を身につけることはむずかしいことでありません。たいてい、1・2年勉強すればかなり使えるようになります。

そんな欧米の人にとって、日本語は異言語です。逆に、日本人にとっては、英語は異言語です。ヨーロッパの人はときどき「日本語、中国語、韓国語、アラビア語は真の異言語 (truly foreign language) だ」と言います。

異言語というのは、わかりやすく言うと、単語についても文法についても文字についても自分の言語との重なりが

ほとんどない言語です。そして、そんな異言語を身につけることはとてもむずかしいです。しかし、上で言ったように、ヨーロッパの人にとってお隣の言語は異言語ではありません。ですから、その習得はやさしいです。こうした考え方からすると、中国語使用者が日本語を学ぶのは異言語学習とはあまり言えません。中国語と日本語ではともに漢字を使っているので、「重なりがほとんどない言語」ではないからです。日本人が中国語を学ぶ場合も同じです。

最初の質問にもどります。外国語を身につけることはむずかしいでしょうか。答えは「むずかしい場合もあるし、やさしい場合もある」です。簡単に言うと、「近い」言語は身につけるのがやさしい、「遠い」言語は身につけるのがむずかしいです。欧米の人にとっての日本語や、日本人にとっての英語は「遠い」言語です。ですから、それを身につけるのは確かにむずかしいです。

げんご ぶんか ひと
「言語と文化と人」

にほんご ぶんか しゅうかん
日本語だけでなく、日本の文化や習慣も！

ぶんか なん
—文化って何だろう—

にしぐち こういち
西口 光一

がいこくご しゅうとく げんご くに
「外国語を習得するためには、言語だけでなく、その国

ぶんか しゅうかん まな にほん ひと
の文化や習慣も学ばなければならない」と日本の人はよ

いほんとう げんご ぶんか
く言います。これは、本当でしょうか。たしかに、言語と文化

ひょうり いったい い ば
は表裏一体のものだと言っていていいでしょう。しかし、その場

あい ぶんか なん
合の文化とは何でしょう。

ぶんか ほんたい なん けいざい せいじ しゃかい
文化の反対は何でしょう。経済？ 政治？ 社会？ どれ

ちが ぶんか ほんたい しぜん どうぶつ し
も違います。文化の反対は自然です。すべての動物は自

ぜん なか しぜん かんきょう そうご さよう い
然の中で自然の環境と相互作用をしながら生きています。

なんじゅうまんねんまえ にんげん い かた じょうたい
何十萬年前の人間の生き方もだいたいそのような状態で

しんげん かんきょう そうご さよう しかた すこ
した。しかし、人間は環境との相互作用の仕方を少しずつ

か どくじ せいさんかつどう せいかつかつどう なかま
変えながら、独自の生産活動や生活活動を、仲間といっ

しょに^{はってん}発展させました。生産活動^{せいさんかつどう}とは、食べ物^{た もの}を獲得^{かくとく}した
り、生活^{せいかつ}に必要な物^{ひつよう もの}を作^{つく}ったりする活動^{かつどう}で、生活活動^{せいかつかつどう}とは、
獲得^{かくとく}した食べ物^{た もの}を料理^{りょうり}したり、みんなでいっしょに食^たべた
り、おしゃべり^{うた}をしたり、いっしょに歌^{おど}ったり踊^{おど}ったりする
活動^{かつどう}と子ども^こを育^{そだ}てる活動^{かつどう}です。そして、独自^{どくじ}の生産活動^{せいさんかつどう}
や生活活動^{せいかつかつどう}を^{はってん}発展させたこと^{ひと}によって、一つの集^{しゅう}団^{だん}として
の独自^{どくじ}の生^いき方^{かた}や暮^くらし方^{かた}ができました。それが文化^{ぶんか}です。
言語^{げんご}は、そうした生産活動^{せいさんかつどう}や生活活動^{せいかつかつどう}を仲^{なか}間^まといっしょ
に運^{うん}営^{えい}するために生^うまれました。そして、新^{あたら}しい活^{かつ}動^{どう}ととも
に発^は展^{てん}しました。ですから、言語^{げんご}は本^{ほん}来^{らい}活^{かつ}動^{どう}と切^きり離^{はな}すこ
とはできません。言語^{げんご}は文^{ぶん}化^かの一^{いち}部^ぶなのです。

南^{なん}米^{べい}のアマゾンに、ピダハン^{みんぞく}という民族^{みんぞく}がいます。かれ
らは、昔^{むかし}と何^{なに}も変^かわらないかれら独自^{どくじ}の狩^{しゅ}猟^{りょう}と採^{さい}集^{しゅう}の生^い
き方^{かた}と独自^{どくじ}の暮^くらし方^{かた}をず^つと続^{つづ}けています。あなたがピ
ダハン^{げんご}の言語^{げんご}を学^{まな}びたいのであれば、ピダハン^いの生^{かた}き方^{かた}

や暮らし方も知らなければなりません。ピダハンの言語は、
まさにかれら独自の生産活動や生活活動を運営するた
めに使われているわけですから。そのような場合は、最初
に言った「言語だけでなく、文化や習慣も」と言うのは、
適当です。しかし、現代語の場合は、事情が違います。

日本語は現代語の一つです。さて、日本人にピダハン
のような独自の生産活動や生活活動があるでしょうか。そ
んなものはありません。現代の社会には、さまざまな種類
の生産活動と生活活動があり、それらが複雑に混在して
います。そして、それぞれの人は自分ができる生産活動と
生活活動のレパートリーをもって、そのレパートリーに
応じた話し方や書き方を身につけています。ですから、
現代社会で生きる大部分の人は、文化的に複合的で、
言語的にも複合的です。

日本の文化、つまり日本で生きる人びとの生き方や暮

らし方を一つのものとして捉えることはできません。ですから、「日本語を習得するためには、日本の文化や習慣も学ばなければならない」と言うのは、あまり適当ではありません。「文化や習慣」を「日本」という単位で見るのは広すぎます。むしろ、「あなたが友だちになりたいと思っている人たちの文化や習慣も学ばなければならない」と言うべきでしょう。そして、そうなると、日本語の習得も、「あなたが友だちになりたいと思っている人たちのような日本語を身につけるのがあなたの日本語を上達させる」ということになります。

わたしたちが新しい言語を学ぶのは、結局、したい活動に参加し、友だちになりたい人と交流するためです。「一般的な日本文化」の中で「一般的な日本人」と付き合い合うわけではありません。

ひんこん だっきやく
「貧困からの脱却」

にい
お兄ちゃんがしゃべったよ!

しょうねん
—シエラレオネの少年アラジ—

おくの ゆきこ
奥野 由紀子

「シエラレオネ」という国くにを知しっていますか。私わたしの周まわりの
人ひとに聞きいてみると、まず知しらないという人ひとが多おほいです。アフ
リカ大陸たいりくの西にしのでっばりの部分ぶぶんにある、海うみに面めんした小ちいさな
国くにです。昔むかしは奴隷貿易ど れいぼうえきが行おこなわれていました。また品質ひんしつの
高たかいダイヤモンドがとれることでも有ゆう名めいです。実じつは、この国くに
は、世界せ かいで最もも命いのちが短みじかい国くにとして知しられています。2020
年ねんの WHO の統とう計けいによると、日本にほん人の平へい均きん寿じゅ命みょうが84.2
歳さいであるの対たいして、シエラレオネは53.1歳さいです。生うまれ
た子こどもの5人にんに一人ひとりが5歳さいになるままでに亡なくなります。こ
れはダイヤモンドの利り権けんの争あらそいで、2002年ねんままでの10年ねん
にわたたった政せい府ふ軍ぐんと反はん政せい府ふ軍ぐんによる内ない戦せんが原げん因いんで、イン

フラが整備されていないことが原因とされています。今も国民の7割が貧困状態にあり、安全な水・トイレすら整っていません。

そんなシエラレオネに、8歳のアラジという男の子がいます。アラジは11歳のお兄さんサヨンと6歳の弟、そして、足の悪いおばあさんと住んでいます。アラジは5歳のときに両親を反政府軍に目の前で殺されました。父は銃殺され、その返り血を浴びた息子たちは、自分が撃たれたと思っ
て「撃たれた!」と叫びました。母は「大丈夫、あなた達は撃たれていない。これはお父さんの血よ。」と言って息子たちを落ち着かせようとしたそうです。その母も首を切られて亡くなりました。お兄さんのサヨンは、森の中を1カ月一人で逃げ続け、声を出して見つければ殺されるという恐怖から、口がきけなくなっていました。内戦当時、幼かった弟たちと違い、物心がついていたサヨンは、心に深い

きず お せいしん ふ あんてい
傷を負い、精神が不安定なままです。

か ぞく ささ さい まいにち まいにち
家族を支えるのは8歳のアラジです。毎日、毎日、ダイヤ
モンド こんざん い て どろ
鉱山に行っては手で泥をかきだし、腰をかがめて、

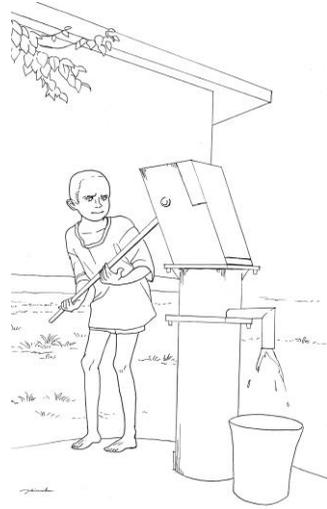


どろ さが
泥だらけになって探し
ています。

たいへん じゅう
これは大変な重
ろうどう
労働ですが、サヨンは
よこ あそ
その横で遊んでいる

せんりよく ひとつぶ
だけで戦力にはなりません。おばあさんは、なんとか一粒
でもダイヤモンドがみつかりますように、と まいにちの
毎日祈りますが、
こんざん おとな ほ あと かんたん み
その鉱山は大人たちが掘りつくした後なので、簡単に見
つかるはずがありません。ダイヤモンドがみつからず、しよくりょう
食料
か みず
が買えないアラジたちは水をくみにいきました。

みず ばしょ しょうがっこう ちか
水をくむ場所は小学校の近く
にあります。りょうしん かにん こ
両親がいる家庭の子
はしょうがっこう かよ
は小学校に通えます。アラジは
ほんとう べんきょう かね かせ
本当は勉強して、お金を稼げるよ
うになって、にい ちやん ろうがっこう
お兄ちゃんを聾学校
にいれたいとおも
っています。そして
くろう じぶん そだ
苦勞して自分たちを育てて
いるおばあさんにらく
をさせてあげたいとおも
っています。お兄
ちゃんにアラジははな
は話しかけます。



たす なに はな
「1+1は何？ サヨン、話してよ、サヨン」
サヨンはとお み
遠くを見るばかりです。そのよる きょうだい
夜は、兄弟たちはその
くんできたみず わ あ の ね
水を分け合って飲んで寝るしかありませんでし
た。

しかし、つぎ ひ み
次の日もダイヤモンドは見つかりませんでした。
アラジたちはもうふつかかん なに た
2日間も何も食べていませんでした。そこ

で、夕方^{ゆうがた}にアラジは、サヨンと弟^{おとうと}をつれて山^{やま}へ行くことにしました。わずかな鉄くず^{てつ}を拾^{ひろ}い、落^おちている木の枝^きを束ね^{えだ}て蒔^{まき}をつくりました。



アラジはサヨンに木の枝^きの集め方^{あつ}を教^{かた}えます。

昔^{むかし}は色々^{いろいろ}教^{おし}えてくれたお

兄^{にい}さんですが、今^{いま}はアラ

ジが教^{おし}えなければなりま

せん。急^{きゆう}に泣^なき出すサヨンに、アラジはまた一生^{いっしょう}懸命^{けんめい}話^{はな}しかけます。

「サヨン泣^なかないで。何^{なに}か言^いってよ、サヨン」

なんとか今日^{きょう}は鉄くず^{てつ}と蒔^{まき}を売^うり、そのお金^{かね}で、豆^{まめ}を買^かうこ

とができました。その豆^{まめ}を使^{つか}って、おばあさんはできるだけ

量^{りょう}が増^ふえるように水^{みず}を足^たして料^{りょう}理^りしてくれました。そうして、

兄^{きょうだい}弟^{はい}はやっどご飯^たを食^たべることができました。アラジはま

たサヨンに話しかけます。

「サヨン、お母さんはどこ？ ねえ、お母さんはどこ？」

いつもと違い、サヨンが何か言いたそうにしています。手を首の前にあて、首を切るジェスチャーをしました。

「しーんだ」

もういちど、手を首の前で横に引き「しーんだ」と、のどの奥から声を発しました。アラジは喜び、大きな声で叫びました。

「お兄ちゃんがしゃべったよ！ しんだって言ったんだ!!」

<参考資料>

・「MEMORVA」ウェブサイト「世界の平均寿命ランキング」

https://memorva.jp/ranking/unfpa/who_whs_life_expectancy.php

(2021.1.28確認)

・フジテレビ 『世界がもし100人の村だったら ディレクターズエディション【DVD】』

「^{ひんこん}貧困^{だっきやく}からの脱却」
^こ子ども^{きょういく}たちに教育^{おとな}を・大人^{しごと}たちに仕事^{ほうじん}を
—NPO法人アラジ代表 ユメミー—

おくの ゆきこ
奥野 由紀子

ユメミは^{やまなしけん}山梨県^うで^{そだ}生まれ育ちました。小学校1年生の
^{ころ}頃から^{かぎ}鍵っ子^こで、お母^{かあ}さんは生活保護^{せいかつほご}をもらいながら、町
^{えいだんち}営団地^すに住み、女手一つ^{おんなでひと}でユメミを育てました。ユメミは
^{ちい}小さいころ、両親^{りょうしん}が二人ともいて、休日^{ふたり}にみんなで出かけ
^{かぞく}る家族^{かぞく}がとてもうらやましかったことや、このように^{かんが}考えた
ことを^{おぼ}覚えています。

「^{ひと}人は^う生まれた^{かんきょう}環境^ごによって、その後の可能性^{かのうせい}が変わって
しまう」

しかし、^{ちゅうがく}中学2年生^{ねんせい}のとき、お母^{かあ}さんが再婚^{さいこん}しました。相
^て手^ははなんと、母^{はは}より18歳^{さい}も年上^{としうえ}の、成人^{せいじん}している娘^{むすめ}が3人
^{ひと}もいる人^{ひと}でした。あっという間^まに名字^{みょうじ}が変わり、引っ越し^かをしを

し、^{はじ}初めての^{かぞく}家族と^{どうきよ}同居。思^し春^{しゅん}期^きのユメミにとって、それは
とても^{たいへん}大変な^{こと}ことでした。でもお^{かあ}母^はさんはユメミにいつもこ
う^い言^いって^くれ^まし^た。

「^{いま}今^{から}から^{ゆめ}夢^{えが}を描^けば、^{なんに}なんに^だだ^って^なれる。ど^{んな}な^ここ^にで
も、^{ちようせん}挑^{せん}戦^して^いい^んだ^よ」

^{こうこうせい}高^{こう}校^{せい}生^になると^{すいそうがく}吹^ぶ奏^{かつ}楽^{はい}の^{べんきよう}部^ぶ活^{かつ}に^{りよう}入^り、^{りつ}勉^か強^{てい}と^{かてい}部^か活^{きんきよう}の^{つら}両^ら
立^{りつ}、^か家^{てい}庭^{かん}環^{きんぎよう}境^に、^{つら}ど^れも^{辛い}辛^いこ^とば^かり^でし^たが、^{ユメミ}ユメミ^{には}は
^{めい}明^{かく}確^{しょう}な^{らい}将^{もく}来^{ひよう}の^{めく}目^{ひよう}標^がが^でし^まし^た。

「^{しょうらい}将^{ひんこん}来^{かい}は^{けつ}シエラレオネ^のの^{ごうどう}貧^{ごう}困^をを^か解^か決^{くわ}する^ため^にに^{こうどう}行^{こう}動^{どう}す^る」
それは^{こうこう}高^{ねんせい}校^の2^{ねんせい}年^の生^のの^{とき}と^{きに}に^{テレビ}テ^レビ^のの^{ドキュメンタリー}ド^キュ^メン^タリ^ーを^み見^た
こ^とが^きっ^かけ^でし^た。シエラレオネ^{のおとこ}の^こ男^{の子}の子^{、アラジ}、アラジ^のの^{ストーリー}ス^トー^{リー}は、^{ユメミ}ユメミ^のの^{その}そ^のの^ご後^のの^{じんせい}人^{じん}生^{せい}全^{すべ}て^をを^か変^かえ^てし^まう^くら
い^のの^{しょうげき}衝^{ねん}撃^{つづ}だ^った^のです。シエラレオネ^でで²⁰⁰²2002^{ねん}年^{まで}ま^で続^{つづ}い
た^{ないせん}内^{こく}戦^{みん}で、^{はんぶん}国^{なん}民^{みん}の^{りようしん}半^か分^はは^難難^{みん}民^{となり}となり、^{アラジ}アラジ^のの^{りようしん}両^か親^はは、^{かれ}彼
の^め目^のの^{まえ}前^でで^{くび}首^きを^き切^なられ[、]亡^なく^なり^まし^た。た^つた^つた^つ8^{さい}歳^はの^は裸^は足^し

のアラジ。内戦のショックで口が利けなくなった兄や、足の
わる悪いおばあさん、小さい弟たちを養うため、毎日少しの
かねかせせいで生活しています。そんなアラジの言葉にユメ
ミは強いショックを受けました。

「お腹が空いた、でも、勉強がしたい」

わずか8歳の戦争を体験した男の子が、勉強をすれば、
家族を幸せにできるかもしれないと考えたことに、悔しく
て涙が出てきました。それと同時に、シエラレオネで起きた
出来事を無視し続ける、日本や世界に対して、怒りを覚え
ました。そして、こう思いました。

「私には、家族がいる、学校にいて、勉強ができる。夢を
描けば、挑戦し、努力することができる」

ユメミは「国際協力」を学ぶために大学へ進みましたが、
シエラレオネを専門に支援する団体は日本にはなく、青年
海外協力隊もシエラレオネには派遣されず、シエラレオネ

には日本大使館もないということがわかりました。自分がやるしかありません。

「シエラレオネに挑戦しなかったら絶対に後悔する」

「何にでも挑戦していい」と言ってくれたお母さんは、大学卒業後、ユメミが就職せず、シエラレオネへ行くことに反対しませんでした。

ユメミは NPO 法人「アラジ」を立ち上げ、今、現地スタッフと日本のスタッフと共にシエラレオネの貧困問題の根本を解決することを目指して、支援活動しています。具体的には、テイラー（伝統的な布で服などを作る人）の収入を支えるプロジェクトや、災害で親を失った子どもの支援・村の小学校に教材を届ける支援・コロナや病気を防ぐための教育支援などです。シエラレオネの人々は不安定な生活の中でも、とてもポジティブです。そんな人々にユメミは元気をもらいながら活動をしています。

以下は、NPO法人「アラジ」の使命と目標です。

「子どもたちに教育を、大人たちに仕事を、共に創る」

「誰もが夢にむかって努力できる社会へ」

少年アラジは今、どこにいるのでしょうか、何をしている
のでしょうか。誰にもわかりません。でもユメミはいつか
会ってこう伝えたいと思っています。

「あなたがいてくれたから、今私がいるよ」



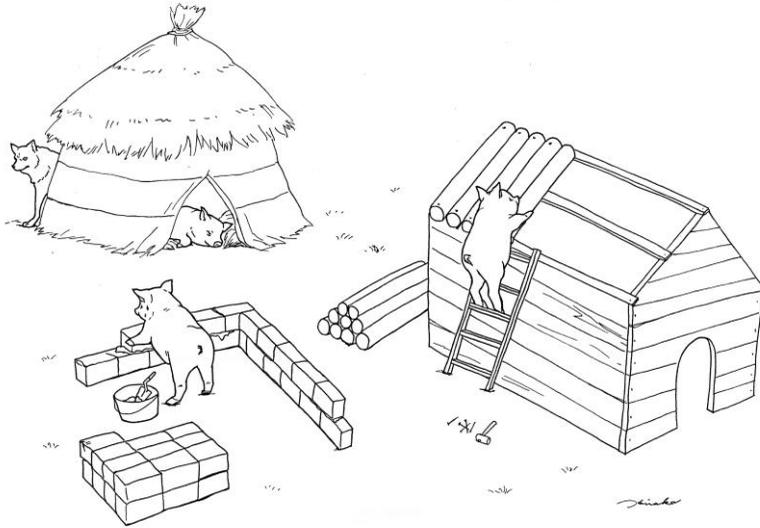
支援しているテイラーさんが
アフリカの布で作ったネクタイ
を持つユメミ。
アフリカの布の小物や洋服は
オンラインで買えます。
(<https://alazi.theshop.jp/>)

注) NPO法人: Nonprofit Organization (特定非営利活動法人)

のこと。一般的には、利益のためではなく社会問題の解決のため
の活動を行います。

にほん いえ
「日本の家」
びき こ にほん いえ
3匹の子ブタと日本の家

まつだ まきこ
松田 真希子



びき こ はなし し
「3匹の子ブタ」の話を知っていますか。

びき こ いえ つく いっぴきめ こ
3匹の子ブタは3つの家を作りました。一匹目の子ブタ
はわらで家を作りましたが、わらの家はオオカミに「フーツ」
と吹き飛ばされました。二匹目の子ブタは木で家を作りま
したが、木の家はオオカミに燃やされました。三匹目の子

ブタはれんがで家を作りました。家を作るのに時間がかかりましたが、丈夫な家ができました。れんがの家はオオカミから子ブタを守りました。

多くの人、この話を読んだあと、がんばってれんがの家を作ったほうがいいと思ったでしょう。しかし、一般的な日本の家は、木でできていることを知っていますか？ 屋根は瓦ですが、柱や床は木でできています。ドアはなんと紙でできています。

このような家の一つが町家です。町家とは、古い町にある特別な家のことです。町家は約1000年前から作られるようになって、1700年～1800年にいまのような町家がありました。町家は道路に



かなざわ まちや
金沢の町家



まちや なか
町家の中

めん た ほそなが いえ おく にわ にわ
面して建てられていて、細長い家で、奥に庭があります。庭

む くつ い ぐち にわ いっぱん
に向かって靴であるけるように、入り口から庭まで一本の

つち ろうか (とま) があります。た もの どうぐ う
土の廊下(土間)があります。食べ物や道具を売っている

まち や おお どうろ ちか みせ ま
町家が多いので、ふつう、道路に近いところに店の間があ

ります(間は部屋のこと)。店の間のとなりの部屋はごはん

を た 食べる「茶の間」、その おく ね ための「奥の間」があり

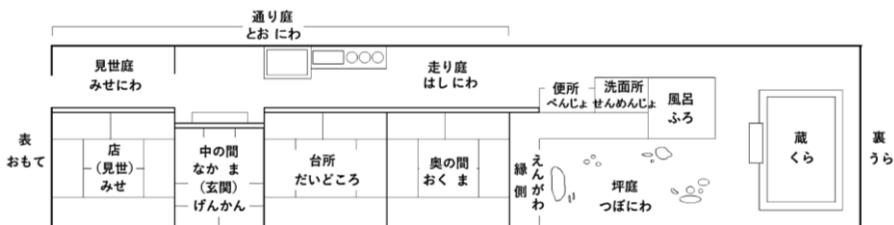
ます。いえ つく かた おな ふる
家の作り方はどこもほとんど同じなので、古くなった

いえ はしら と と はず つぎ あたら いえ
家の柱や戸(戸はドアのこと)を外して、次の新しい家を

た さいりょう ふる なお
建てるときに再利用することもできます。古くなっても直し

やすいので100年 ねん いじょう いえ おお きょうと
以上つづく家が多くあります。京都や

かなざわ まち や
金沢には、このような町家がまだたくさんあります。



まち や こうぞう
町家の構造

まち や ふる さむ ふ べん じ ぶん いえ かべ
町家はとても古くて、寒くて、不便です。自分の家の壁と
となり いえ かべ と かみ
隣の家の壁はぴったりくっついていて、戸は紙でできてい
ますから、隣にいる人の声がよく聞こえます。木でできてい
るので、火事になるととても危険です。そして、それぞれの
いえ つく かた だいたいおな こせい
家の作り方は大体同じですから、個性ありません。

そのため、古い町家はどんどん壊されて、若い人たちは
べん り あんぜん こせい てき いえ た わか
便利で安全で個性的な家を建てるようになりました。若い
ひと た いえ いえ いえ てつ
人たちが建てる家は、コンクリートの家、れんがの家、鉄の
いえ か がく そざい つか いえ いえ む
家、化学素材を使った家などです。そして、家の向きもバラ
バラ、壁の色もバラバラの家が日本中に増えました。さら
に ほん こう ど けいざいせいちよう き ちゅうしん ち
に、日本の高度経済成長期（1955～1973）、中心地か
ら離れたところに「ニュータウン」（New Town、新しい街）
という名前の街ができて、新しい家がたくさん建てられま
した。多くのサラリーマンにとって、車を買って、ニュータウ
ンに家をたてて、そこで生活するというのが一つの夢でし

た。

2020年の今、日本は少子高齢化が進み、人口は減り
つつあります。人口の減少とともに、空き家がとても増えて
います。今、日本にある家の1/8が空き家です。若い人た
ちがいいと思う家は、10年経つとその価値が半分になり、
30年後は0円になります。家に価値がないので、どんどん
壊されて大きなゴミになります。そのゴミは山の中に捨てら
れ、家が壊されて何もなくなった土地にまた新しい家が建
てられているのです。

「日本の家」

日本にレンガの家は必要か？

まつだ まきこ
松田 真希子

ゆうめい にほん じんじゃ みえ
有名な日本の神社に、三重

けん いせ じんぐう
県の伊勢神宮があります。そこ

にある神社は20年に一回、壊し

て、隣に建て直します。何千年も

前からずっと続けられているルー

ルだそうです。わたしは、どうして

壊して作り直すのか、ずっと

不思議に思っていました。

じつ やく まんねんまえ じょうもん ど き ねん いちど こわ
実は、約1万年前の縄文土器も、1年に一度壊してもう

いちど つく
一度作られていたそうです。もう一度、新

しい命や新しい神様を受け入れるため

に、作り直しをしたといわれています。家



いせ じんぐう
伊勢神宮にはたくさん
の神社があります。右
の神社は 20年後左の
空き地に建てられます。



じょうもん ど き
縄文土器

も、同じ理由^{おな り ゆう}かもしません。日本の器^{に ほん うつわ}や家^{いえ}というのは、「生まれ変わり^{う まれ か わり}」、つまり、死^しと再生^{さいせい}という大きな時間のサイクル^{おお じ かん}の中に位置^{な か い ち}づけられているから、壊^{こわ}して作り直^{つく なお}すのかもしません。

日本^{に ほん}の家^{いえ}と違^{ちが}って、西洋^{せいよう}の家^{いえ}や教会^{きょうかい}は、れんが^{いし}や石^{いし}でできているものが多い^{おお}です。そうした建物^{たてもの}は何^{なん}千年^{ぜんねん}も



西洋^{せいよう}の家^{いえ}なみ(イタリア)

のこ^{のこ}残^{えいえん}ります。つまり、永遠^{じ かん}の時間^{な か たてもの}の中に建物^{たてもの}があるのです。

日本^{に ほん}の家^{いえ}は、神社^{じんじゃ}のような、周期^{しゅうき}的に壊^{てき}して建^{こわ}て直^たすもの^{なお}です。つまり、1年^{ねん}で季節^{きせつ}が回^{まわ}って戻^{もど}るように、回^{まわ}る時間^{じ かん}の^な中に家^{いえ}を位置^{い ち}づけ、再生^{さいせい}するのが、日本^{に ほん}的な家^{いえ}のあり方^{かた}なのです。町家^{まちや}は100年^{ねん}以上^{いじょう}そのまま^{つづ}続^{おお}くものも多^{おほ}くあり^まますが、多^{おほ}くの場合^{ばあ}、いくつ^{ぶひん}かの部^{こうかん}品^いを交^い換^ましながら、今^{いま}の^{じょうたい}状態^{つづ}が続^{つづ}いています。

また、日本は台風や大雨、大きな地震が多い国です。

大きな災害があったとき、ほとんどの家は壊れてなくなって
しまいますから、また作り直さなければなりません。しかし、
木や紙でつくられた家は壊れても、すぐに直すことができ
ます。そして、材料が軽いため、家が倒れても、家の中で死
んでしまう可能性が低いです。

1995年、神戸で大きな地震（阪神淡路大震災）が
あったとき、たくさんの家やビルが倒れ、多くの人が亡くな
りました。その時、日本の建築家の坂茂さんは、紙管（紙
で作った棒）で教会をつくりました。紙でできた家や教会
は倒れても重くありません。立て直すのも簡単です。

このように、日本の家が20年-30年くらいで価値がな
くなって建て替えられるのは、神道の「生まれ変わり」の
考え方の影響、そして日本の自然環境の影響があるの
かもしれません。しかし、現在は交換の考え方だけが残っ

て、部材が再利用されません。これでは、ごみが増えるばかりです。もし、環境を大事にして家を建てるなら、再利用できる材料でつくる、昔の日本の家づくりにもう一度戻った方がいいのではないのでしょうか。

ぜひ、新しいレンガの家を建てる前に考えてほしいとおもいます。

「メディア・リテラシー」

メディアと私^{わたし}

かどくら まさみ
門倉 正美

メディアとの3つ^{て あ}の出会いが、私^{わたし}のこれまでの長い人生^{なが}
の中^{なか}で、特に^{とく}思い出^{おも}に残^でっています。^{のこ}

その第一^{だいいち}は、1959年、私^{わたし}が小学校^{しょうがっこう}5年生^{ねんせい}のときに、家^か
族^{ぞく}がテレビ^かを買^ちったこと^{えい}です。小さな映画館^{が かん}が家^{いえ}に来^きたよ
う^うでした。アメリカのアニメ^{しゅじんこう}の主人公^{が めん}がテレビ^{が めん}の画面^{が めん}
で活躍^{かつやく}していました。それ^{えい}までは、映画館^{が かん}でしか動画^{どうが}を見る^み
こと^{こと}ができません^{でき}でした。それが、テレビ^{テレビ}によっていつ^{いつ}でも
家^{いえ}で見^みられるようになった^なのです。

テレビ^{テレビ}は小さな映画館^{が かん}であっただけ^{だけ}でなく、強力^{きょうりょく}な広告^{こうこく}
画面^{が めん}でもあり^ありました。当時^{とうじ}は、アメリカ^{ばんぐみ}の番組^{ばんぐみ}が多^{おほ}くて、私^{わたし}
は、アメリカ^{か てい}の家庭^{けいたい}の豊^{ゆた}かな生活^{せいかつ}をうらやましく思^{おも}いました。
私^{わたし}だけでなく^{おほ}多くの日本人^{にほんじん}がそう思^{おも}ったよう^{よう}です。1950

ねんだいこうはん 　 れいぞうこ 　 そうじき 　 う
年代後半は、テレビ、冷蔵庫、掃除機がよく売れました。そ
れらは、テレビで見たアメリカの家庭にある電気製品でし
た。そして、1960年代に日本の経済の高度成長が始ま
ると、カラーテレビ、車、エアコンが人気商品になりました。

ご 　 にほん 　 いがい 　 くにぐに 　 けいざい 　 はってん
その後、日本以外の国々でも、経済が発展するときには、
テレビが強力な広告のメディアになりました。

だいに 　 おも 　 で 　 てあ
第二の思い出は、ワープロ (word processor) との出会い
です。1983年、大学教師の私は、とても高価なワープ
ロの機械を大学の研究室で初めて使いました。そのワー
プロで、有名な先生の講演の記録を一人で作って、学生
たちに配りました。ワープロを使えば、本の活字と同じ字で
印刷できました。出版社だけでなく、個人でも出版できる
ようになったのです。社会を一人の力でも変えていくこと
ができるようになるかもしれない、とうれしく思いました。

げんざい 　 つか 　 もじ 　 えいぞう
現在は、インターネットを使って、文字だけでなく、映像

や音楽も個人が自由に世界中に発信できるようになりました。一人の人が撮ったスマホの映像がニュースとして、大きな影響をもつこともあります。逆に、一人の人の憎しみが社会に大きく広がっていくこともあります。

メディアとの第三の出会い、アマゾンの Kindle です。2012年、退職の四ヶ月前に買って、通勤の時間など、仕事と仕事の間の時間に、とても長い小説を熱心に読みました。Kindle は小さな文庫本のように、その中には非常にたくさんの電子書籍を入れることができます。私は本が好きなので、小さな図書館を持っているようなゆたかな気持ちになりました。

紙の本と Kindle の中の電子書籍とでは、どこが違うのでしょうか。電子書籍は保存場所がないという、よい点があります。でも、紙の本ではぱらぱらとページをめくると、大体の内容が分かるのに、電子書籍では全体をすば

やく見ることはできません。その他にも、違う点がいま
とありそうです。

わたし
私にとっては、テレビ、ワープロ、電子書籍という3つの
メディアとの出会いが大切な思い出です。みなさんも、今
までの人生を振り返って、メディアとの重要な出会いを3
つ思い出して、それについて考えてみませんか。そうすると、
メディアと自分との関係が少し分かってくると思います。

【本文と関係することの年表】

1945年8月 第二次世界大戦で日本が負けた。

1953年 NHK が日本で初めてテレビ放送をはじめた。

1955年～1973年 日本経済が高い成長をつづけた。

1978年 日本で初めてのワープロ機 (word processor) が作ら
れた。

2012年11月 アマゾンが Kindle を日本で初めて売らだした。

「メディア・リテラシー」 あなたにとってスマホとは何か

かどくら まさみ
門倉 正美

たくさんあるメディアの中で、あなたが一番好きなメディアは何ですか？ たぶんスマホではないでしょうか？

メディア・リテラシーのワークの一つに、「メディア1週間日記」があります。自分が一番好きなメディアを1日に何時間、どのように使っていたかを、1週間、日記に記録するワークです。あなたもこの日記をつけてみませんか。そうすると、自分が好きなメディアとどのように付き合っているかがわかって、面白いと思います。また、メディアとの付き合いにそんなに長い時間を使っていたのか、と反省するかもしれません。

電車に乗ると、ほとんどすべての乗客がスマホを見ていることに気づきます。自分がスマホを使っていないとき、私

はそのことをとても^{へん}変だ^{おも}と^{おも}思っていました。現在、スマホを
つか^{つか}使うようになってから約1年間^{やく ねんかん た}が^た経^たって、スマホで何が^{なに}でき
るかが^わだいたい^{わか}り^りました。スマホを^{つか}使う^{まえ}前^{まえ}からタブレット
はよく^{つか}使^{つか}っていたので、スマホとは^{でんわ}電話^き機^{のう}能^もを持^ちった小^{ちい}さ
な^{おも}タブレットだ、と^{おも}思^{おも}っています。ですから、^{でんしゃない}電車^{ない}内^{ない}でほとん
どの^{ひと}人^{ひと}が^みスマホ^みを見^みていても、みんな^{おな}同^{おな}じ^{おな}こと^{おな}をして^{おな}いるわ
け^りではない、と^{かい}理^{かい}解^{かい}して^{かい}います。

そう^{ある}だ^{ある}と^{ある}しても、^み歩^みき^みなが^みら^みず^みながら^みスマホ^みを見^みたり、^{じてんしゃ}自^{じてんしゃ}転^{じてんしゃ}車^のに^の乗^の
り^のなが^のら^のず^のスマホ^のを見^のたり^のして^のいる^の人^のが^のい^のると、やはり^{へん}変^{へん}だ^{へん}と
^{おも}思^{おも}い^{おも}ます。少^{すこ}し^{すこ}の^{すこ}時^{すこ}間^{すこ}でも^{すこ}スマホ^{すこ}を持^もって^もいないと、^ふ不^ふ安^{あん}
に^{おも}思^{おも}う^{おも}人^{おも}も^{おも}い^{おも}る^{おも}よう^{おも}です。そう^{ひと}した^{ひと}人^{ひと}は、^い「^いスマホ^い依^い存^い症^い」と
^よ呼^よば^よれる^よこ^よとも^よあ^より^よます。スマホに^いそれ^いほど^い依^い存^いして^いしま^いう
のは、^{てん}なぜ^{てん}な^{てん}ので^{てん}しょう。この^{ふか}点^{ふか}を^{かんが}深^{かんが}く^{かんが}考^{かんが}え^{かんが}ると、^{げん}現^{げん}代^{げん}社^{げん}会^{げん}
にお^{にんげんかんけい}ける^{にんげんかんけい}人^{にんげんかんけい}間^{にんげんかんけい}関^{にんげんかんけい}係^{にんげんかんけい}や^{にんげんかんけい}コ^{にんげんかんけい}ミュ^{にんげんかんけい}ニ^{にんげんかんけい}ケ^{にんげんかんけい}ー^{にんげんかんけい}シ^{にんげんかんけい}ョ^{にんげんかんけい}ン^{にんげんかんけい}の^{にんげんかんけい}あ^{にんげんかんけい}り^{にんげんかんけい}方^{にんげんかんけい}を^{にんげんかんけい}考^{にんげんかんけい}え^{にんげんかんけい}る^{にんげんかんけい}
こ^{おも}と^{おも}に^{おも}つ^{おも}な^{おも}が^{おも}る^{おも}と^{おも}思^{おも}い^{おも}ます。

もちろんスマホのよい点、素晴らしい点も見えていく必要
があります。スマホ初心者にとっては、声で入力して
検索できることはとても便利です。メッセージをすぐにやり
とりできるのも楽しいですね。

でも、日本語教師としては、スマホでいつでもどこでも
気軽に日本語の学習ができるのが、一番素晴らしいです。
日本語の辞書や文法学習のアプリはたくさんの種類が
出ています。友だちや日本語の先生といっしょに、その中
で一番すぐれたもの、自分に合ったものを探してみてください
さい。

読むことを練習できるアプリの中にもいいものがありま
す(注1)。「読む力」というと、ふつうは本や教科書を読む
力のことだけを考えるでしょう。でも、スマホでウェブサイ
トにアクセスして、それを速く読む力もとても重要です。
ウェブサイトには、みなさんの興味に合った記事がたくさん

あるはずで^よす。「^{ちから}読む力」や「^き聞く力」の^{れんしゅう}練習ができるサイ
トもたくさんあります(注2)。そうしたサイトについても、^{とも}友だ
ちや^{にほんご}日本語の^{せんせい}先生と^{じょうほう}情報を^{こうかん}交換して、^{じぶん}自分に^あ合ったもの
を^み見つけてください。

注1) ^{わたし}私が^{おも}よいと思うアプリは、TODAI EASY JAPANESE と
MONDO というアプリです。^{りょうほう}両方とも、^{おもしろ}面白いニュースが^{ふり}りが
なと^{おんどく}音読といっしょに^よ読むことができます。

注2) NEWS WEB EASY で、NHK のニュースをやさしい^{にほんご}日本語
で^よ読んだり^き聞いたりできます。テレビをもっていない^{ひと}人には、
ABEMA という^{むりょう}無料のTVアプリをすすめます。YouTube は^{こと}言
葉を^{まな}学ぶツールでもあります。YouTube で^{おもしろ}面白いトピックの^{どう}動
画を^み見つけて、^{たの}楽しく^{にほんご}日本語のリスニングの^{れんしゅう}練習をしましょう。

「テクノロジー」 キャッシュレス社会^{しゃかい}

さ さ き りょうぞう
佐々木 良造

わたし きょう かね つか
私は今日、いくらお金を使ったでしょうか。

わたし いえ かいしゃ の かたみち えん
私は、家から会社までバスに乗ります。片道190円です。
ひる かいしゃ しょくどう はん た きょう
お昼ごはんは、会社の食堂でご飯を食べます。今日は
えん から あ どん た ご ご じどうはんばいき
460円の唐揚げ丼を食べました。午後、自動販売機で
えん えん
130円のコーヒーを買いました。仕事が終わったら、また
の いえ かい えん かい ちか
バスに乗って家に帰ります。190円です。帰りに近くのスーパーに寄って、おかずや飲み物を買いました。1,252円でした。今日は全部で2,222円使いました。でも、私は現金は1円も使っていません。現金、つまり、紙幣(1万円札、せんえんさつ せんえんさつ せんえんさつ こう か えんだま
5千円札、2千円札、千円札)と硬貨(500円玉、100えんだま
円玉、50円玉、10円玉、5円玉、1円玉)は使いませんでした。バスの料金とコンビニのコーヒーは、ペンギンの緑の^{りょうきん みどり}

カード(電子マネー)で払いました。会社の食堂では、会社のプリペイドカードで払いました。近くのスーパーでは、スマホのアプリでお店のQRコードを読み取って、金額(1,252円)を入力し、「支払う」ボタンを押せば、現金で払う必要がありません。

現金を使わないので、買い物がとても楽です。電子マネーやスマホのアプリを使えば、いつ、いくら使ったか記録が残ります。1か月に1回ぐらい、電子マネーもクレジットカードも使えないお店に行くことがあるので、現金も少しも持っています。でも、財布のなかにはいつも2千円ぐらいしかありません。

現金を使わない「キャッシュレス」は、とても便利です。フィンランドやエストニア、アメリカ、中国、韓国など、キャッシュレスが進んでいる国がたくさんあります。では、なぜキャッシュレスを進めるのでしょうか。その理由として、紙幣

や硬貨は、作ったり運んだりする費用（コスト）がかかりま
す。また、保管する費用や汚れたり破れたお金を回収する
（メンテナンスと言います）費用もかかります。日本の場合、
製造のコストが約500億円、メンテナンスの費用が約
450億円かかっています。現金を使わないといいことは他
にもあります。スーパーのレジに並んだり、銀行の窓口で
待ったりすることもあります。それから、お金はいろいろな
人が使います。だれが触ったかわからないお金は、こんな
世の中だと、ちょっと心配になります。

こんなに便利なのに、日本に来た外国人観光客からは
「日本はキャッシュレスが進んでいない。不便だ」という声
をよく聞きます。それもそのはずです。日本のキャッシュレス
は、全体の40% ぐらいなのです。なぜ、日本はキャッシ
ュレスが進まないのでしょうか。ある調査によると、日本では
「キャッシュレス社会」に賛成の人と反対の人が半分半分

だということです。反対の人の理由は「気がつかずにお金をたくさん使ってしまいそうで、怖い」、「暗証番号が知られるかもしれない」、「地震や台風などで使えなくなる」という心配をする人がいるとのことでした。他にも、使い方がわからないおじいさん、おばあさんがいる、小さい子どもが使えない、という問題点もあります。

しかし、キャッシュレスが進んだら、お金を扱うストレスから解放されて、快適な生活が送れるでしょう。それに、スマホさえあれば銀行口座を持っていない人（unbanked）でもお金のやりとりができたり、お金に関わる犯罪を防止したりすることができます。これから、キャッシュレスはどんどん進むでしょう。

「テクノロジー」

じ どううん てんしゃ 自動運転車

さ さ き りょうぞう
佐々木 良造

わたし どうきょうと となり となり しずおかけん す
私はいま、東京都の隣の隣の静岡県に住んでいます。

ねん かい つま こ ふたり つ くるま じっか かえ
年に2回、妻と子ども二人を連れて、車で実家に帰ります。

じっか どうきょうと うえ うえ ぐんまけん
実家は、東京都の上の上にある群馬県というところです。

しずおかけん ぐんまけん くるま じかん
静岡県から群馬県まで、車で5時間ぐらいかかります。

ち ずじょう じかん じかん じっさい こうそくどう
地図上では3時間か4時間ぐらいですが、実際は高速道

ろ じゅうたい とちゅう きゅうけい じかん
路が渋滞していたり、途中で休憩したりして、5時間ぐら

いかかります。



わたし うんてん す
私は運転が好きですが、ときどき、ものすごく眠くなること
ねむ
があります。つま くるま うんてん
妻も車の運転ができますが、高速道路は怖い
こうそくどうろ こわ
から、とって うんてん
い 言って運転しません。いくら うんてん す
運転が好きでも1人で
ひとり
なん じ かん うんてん
何時間も運転するのは疲れてしまいます。
つか

そんなとき、「自動運転車があつたらいいなあ」と思うこ
おも
とがよくあります。じ どううんてんしゃ
自動運転車が こうそくどうろ
高速道路を走れるように
はし
なつたと聞いたことがあります。わたし
私はまだ自動運転で
じ どううんてん
走っている車を見たことはありません。自動運転の技術は、
ぎ じゆつ
いま
今、どうなっているのでしょうか。

じ どううんてん
自動運転のレベルは、レベル0(自動運転なし)からレ
じ どううんてん
ベル5(完全運転自動化)まで6つのレベルがあります。
かんぜんうんてん じ どう か
じつ
実は、レベル0からレベル2(部分運転自動化)までは、
ぶ ぶんうんてん じ どう か
うんてん
運転するのは人間です。レベル3(条件付運転自動化)は
じょうけんつきうんてん じ どう か
じ どううんてん
自動運転システムが運転しますが、継続して運転するの
うんてん
が難しい場合は人間が運転します。レベル4(高度運転
こう どううんてん
むずか ば あい にんげん うんてん

自動化) になってはじめて、自動運転システムが車を運転

します。現在、日本で売っている車は、一般道でレベル2、

高速道路でレベル3の自動運転が認められています。

高速道路でのレベル4の自動運転の実現は、2025年を

目標としています。

どうやら、私はまだまだ車を運転しなければならないよ

うです。

「バイクと社会」^{しゃかい}

善と悪のバイク^{ぜん あく}

—ヒーローも暴走族もなぜバイクに乗るのか—^{ぼうそうぞく}

よしかわ とおる
吉川 達

「仮面ライダー」^{かめん}というキャラクターがいます。日本^{にほん}で人^{にん}

気^きがあるテレビ番組^{ばんぐみ}のヒーローです。今^{いま}も続^{つづ}いているテレ

ビシリーズ^しなので、知^し

ている人^{ひと}もいるかもしれ

ません。仮面ライダー^{かめん}は、

その名前^{なまえ}の通り「ライ

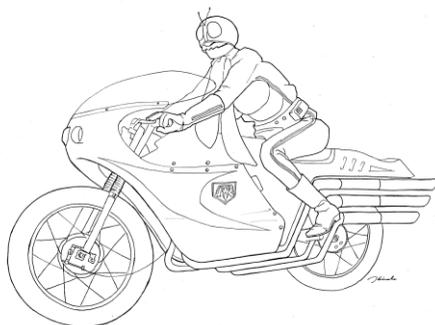
ダー」^となので、バイクに

乗^のります。バイクに乗^のって悪い敵^{わる}のところに向^むかったり、バ

イクに乗^のったまま敵^{てき}と戦^{たたか}ったりします。

仮面ライダー^{かめん}のほかにも、「月光仮面」^{げっこうかめん}や「キカイダー」

など、バイクに乗^のったヒーローがいます。これらのヒーロー



は、昭和の時代（1926-1989年）に生まれました。仮面ライダーのテレビ番組が始まったのは、1971年です。1970年ごろは、ホンダやヤマハのような、日本のバイクの会社が大型バイクを作り始めて、世界で有名になっていった時です。

同じころ、「暴走族」という人たちも生まれました。暴走族は、バイク（ときどき車）に乗った悪い人たちのグループです。暴走族は、バイクで大きい音を出したり、道路でひど



い運転をしたり、物を壊したり、別のグループとけんかをしたりします。暴走族は、バイクにのるときに「特攻服」という特別な服を着ます。グループみんなで同じ服を着て、同じ仲間だという気持ちを強くします。10人ぐらいの小さいグループから、2000人ぐらいの大きいグループまで、全国

に1000以上の暴走族のグループがあったそうです。

仮面ライダーはヒーローなので良い人(善)です。

暴走族は迷惑をかけたたり暴力をふるったりするので悪い

人(悪)です。善と悪の反対の人なのに、どちらもバイクに

乗っています。ヒーローと暴走族に共通するところがある

のでしょうか。

それは、バイクに乗っていると、他の人から自分がよく見

えるし、動きやすいということです。ヒーローは、バイクに

乗って敵のところに向かったり、バイクに乗ったまま敵と

戦ったりします。そのとき、もしバイクじゃなくて車に乗って

いたら、どうなるでしょうか。車にはドアや窓や屋根がある

ので、中が見にくくて、だれが乗っているかよくわかりませ

ん。敵に攻撃するときも、やりにくいでしょう。車に乗ったま

ま敵を攻撃しようと思ったら、窓から手を出すしかありませ

ん。それがバイクだったら、ヒーローの姿が見えるし、バイク

に乗ったまま敵をなぐったり、武器を使ったりできます。

暴走族も同じです。バイクだったら、乗っている人の頭から足の先まで見えます。どんな特攻服を着ているか見えるので、同じグループか、違うグループか、すぐにわかります。また、バイクに乗ったまま木の棒を振り回したり、物を投げたりできます。警察に追いかけられたときに、クルッと回って逃げることもできます。

ヒーローと暴走族。善と悪のどちらもバイクに乗っています。バイクは、善にとっても悪にとっても、象徴的な乗り物かもしれません。だから子どもにとってバイクは憧れであり、悪のイメージでもあるのです。

「バイクと社会」
災害とバイク
ーバイクの機動力が生きる場面ー

よしかわ とおる
吉川 達

バイクの良い点のひとつに、機動力が高いことがあります。機動力とは、動きやすさです。詳しく言うと、バイクは車と同じようにエンジンで動くので、スピードが出るし、遠くまで行けます。また、車より小さくて軽いので、車で行けない細い道や悪い道でも通ることができます。こんな、バイクの機動力が役に立つときが、災害です。

日本は、地震や台風、大雨や火山の噴火など、自然災害が多い国です。特に地震のときには、バイクが役に立ちます。例えば、地震が起きて道路が壊れてしまったときのことを考えてみましょう。その道路は山の中にあって、山の奥の村に行けます。その村に行く道は一本だけで、ほかの

道はありません。そんな大切な道が地震で壊れてしまいました。村にも、地震で困っている人がいるかもしれません。でも、車が通れません。そんな時にバイクが役立ちます。



壊れた道路を進むオフロードバイク

バイクには、いろいろな種類があります。そのひとつに「オフロードバイク」というバイクがあります。オフロードバイクは、砂の道や山の中の道などの、きれいではない道でも走れます。災害が起こったときに、最初にオフロードバイクでその場所に行って、情報を集めたり、ひどい怪我の人を

たす じょうほう つか きゅうじょ ほうほう
助けたりします。それから、その情報を使って救助の方法
かんが じっさい おこ
を考えるということが、実際に行われています。

ねん ほんしんあわ じ だいしんさい
たとえば、1995年の阪神淡路大震災のときです。

ほんしんあわ じ だいしんさい こうべ おおさか ちゅうしん お おお
阪神淡路大震災は、神戸や大阪を中心に起きた大きな

じしん とき どうろ こわ たてもの たお
地震です。その時は、道路が壊れたり、建物が倒れたり、

か じ お たす くるま ひ さい ち
火事が起きたりして、助けるための車がなかなか被災地

じしん ばしょ い
(地震のあった場所)まで行けませんでした。いつもなら

くるま じ かん ばしょ とき じ かん
車で1時間ぐらいの場所も、その時は16時間かかったそ

うです。しかし、バイクは2時間で行けました。この経験から、

けいさつ しょうぼう さいがい つか
警察や消防では、災害のためにオフロードバイクを使うよ

うになりました。

ねん ひがし に ほんだいしんさい お どうほく
そして、2011年に東日本大震災が起きました。東北

ち ほう かんとう ち ほう お おお じしん じしん
地方から関東地方に起きた大きな地震です。この地震で、

たてもの どうろ こわ じしん あと つ
たくさんの建物や道路が壊れました。また、地震の後に津

なみ き おお たてもの どうろ こわ
波が来て、もっと多くの建物や道路が壊れました。そのとき

に、バイクを使って被害の情報を集めたり、食べものや薬
を届けたりしました。道路が壊れて救急車が通れなかった
ので、救急隊員がバイクの後ろに乗って、けがをした人の
ところに行ったりもしました。また、電話もインターネットも
使えなくなったので、バイクが電話の代わりになりました。
警察や病院などの情報をバイクに乗って直接別の場所
に伝えに行ったそうです。さらに、地震のあとには、全国か
らバイクに乗った人たちがボランティアにきました。バイク
には交通渋滞がなくて、少ないガソリンで長く走れるので、
車でボランティアに来た人よりも早く着いたそうです。

これが、バイクの機動力です。バイクの機動力は、いつも
はそれほど注目されません。しかし、地震などの災害が起
きたときには、とても役立ちます。最近では、自然災害が増え
ています。これからはますますバイクが社会の役に立つ機
会が増えていくでしょう。

<日本語ちょっとストーリーズについて>

「日本語ちょっとストーリーズ」は、今、世間で話題になっていることや世界のおもしろい事件、著者の体験や論理パズルなど、気軽に読める読み物です。ウェブサイトには100以上の話がありますが、この本では、話をたくさん書いた6人の作品を2つずつ紹介します。著者の紹介は、この本の最後にあります。

【著者と作品】

- 佐藤淳子 : 「悪い虫?」「495」
- 二口和紀子 : 「時間と交換」「対話とは」
- 森勇樹 : 「不思議な眼鏡」「夢を見る」
- 門倉正美 : 「かこさとしの STEAM 絵本」
「のろのろ競争」
- 佐々木良造 : 「始め良ければすべて良し」
「Email アドレスはもう一つの名前」
- 吉川達 : 「自転車ジョティさん」
「バンクシーのいたずら」

わる むし 悪い虫？

さとう じゅん こ
佐藤 淳子

ぼくは^{むし}虫が^{だいす}大好きだ。^{むし}虫を^{つか}捕まえて、^いカゴに入れてじゅく
り^み見る。見た^みあとは^だカゴから出して、^{しぜん}自然にかえす。^{むし}虫の^{ほん}本
を^み見るのも^す好きだし、テレビやインターネットで^{むし}虫の^{どうが}動画を
^み見るのも^す好きだ。^{むし}虫はいろいろな^{いろ}色や^{がら}柄をしている。それぞ
れの^{いろ}色や^{がら}柄に^い意味がある。メスに^いモテるためだったり、自
^{ぶん}分を^{つよ}強く^み見せるためだったり、いろいろな^い意味がある。それ
が、^{すごく}すごくおもしろい。

ときどき、ぼくの^{いえ}家の中に^{むし}虫が^{あそ}遊びにくることがある。お
^{ねえ}姉ちゃんは^{むし}虫が^{きら}嫌いだから（^{きら}嫌いというか、^{だいきら}大嫌い）、
^{きゃー}きゃー！ と^{さけ}叫んで、ぼくを^よ呼ぶ。ぼくは、^{むし}虫を^{ころ}殺さずに、やさ
^{いえ}しく家の外に出す。虫は^{そと}虫で、^だ一生^{むし}懸命^い生きているから、
^{ころ}できるだけ^{しぜん}殺さずに、自然にかえしてあげたいんだ。

^{むし}虫が^{だいす}大好きなぼくは、いま、^{なや}すごく悩んでいることがある。

「^{わる}悪い^{むし}虫^{ころ}」は殺していいのか、ということ。

ぼくが^{なや}悩み^{はじ}始めたのは1年^{ねん}くらい^{まえ}前の^{はる}春だ。その^{とうじ}当時、



ぼくはハチに^む夢^{ちゆう}中で、

^{いえ}家の^{まわ}周りや^{こうえん}公園で、い

ろいろな^{しゆるい}種類^いのハチを

じっくり^み見^みていた。そして、

ハチの^{しゃしん}写真^とを撮^とって、

^{ほん}本やインターネットで^{くわ}詳しい^{じょうほう}情報^{しら}を調^{しら}べていた。ハチのこと

を^{くわ}詳しく^{しら}調^{しら}べるうちに、「^{わる}悪い^{ハチ}」が^わいることが^わかった。

そのハチは、もともと^{にほん}日本には^いなかつた^{ねん}んだけど、30年^{ねん}く

らい^{まえ}前に、^{のう}農家^かの人^{ひと}たちが^が外国^{こく}から^つ連れて^つきたらしい。そ

のハチが^はトマト^との^{まわ}畑^{まわ}を^は飛び^は回^{まわ}れば、^はトマト^とが^たくさん^とできる

んだって。そのハチが^ふどん^ふどん^ふ増^ふえて、^はトマト^と畑^{まわ}だけ^はじゃなく、

^{ほか}他の^ば場所^{しょ}にも^す住^すむよう^にな^にったらしい。そして、^{にほん}日本^にも^とも

も^といた^すハチ^すの^ば住^すむ^へ場所^へが^へ減^へって^へしま^へった^へんだって。

だから、^{くに}国の^{ひと}えらい人たちや、^{まち}ぼくの^{まち}町の^{ひと}えらい人たちは、
その「^{わる}悪い^みハチ」を^み見つけたら^{ころ}殺してください、^いって^い言ってる。
^{まち}町のウェブサイトには、^{ころ}殺し^{かた}方も^いのってる。ペットボトルに、
^{さら}お皿を^{あら}洗うための^{せんざい}洗剤と^{みず}水を入れて、^いその^{なか}中に^いハチを入
れるんだ。

ぼくの^{いえ}家の^{ちか}近くにも、その「^{わる}悪い^みハチ」はたくさんいる。あ
る^ひ日、ぼくはその^{びき}ハチを^{あみ}1匹、^{つか}網で^{せんざい}捕まえて、^{みず}洗剤と^{なか}水の中
に^い入れた。ハチは、^いぶぶぶぶぶぶぶぶ、と^{おお}すごく^{おと}大きな音を
たてたあと、^{うご}動かなくなった。お母さんは「^{わる}悪い^{かあ}ハチ、^わやっつ
けたね」と^い言ったけど、ぼくは^{かな}すごく^い悲しくなった。

そのハチは、^{あたま}すごく^{ほう}きれいなんだ。頭^{くろ}の方から、^{きいろ}黒、^{くろ}黄色、
^{くろ}黒、^{きいろ}黄色、^{くろ}黒、そして^{しり}お尻^{しろ}のところが^{せいかく}きれいな白。性格もお
となしくて、^{にんげん}人間^{ちか}が^い近く^{こうげき}にいても^い攻撃してこない。

そのハチは、「^{わる}悪いハチ」なのかな？

^{だれ}誰にとっての「^{わる}悪いハチ」なのかな？

そのハチを^{ころ}殺すのはいいことなのかな？

^{だれ}誰にとってのいいことなのかな？

ぼくは、すごく^{なや}悩んでいる。^い生かすのと、^{ころ}殺すのと、どちら
がいいのかわからない。わからないから、あの1匹^{びき}を^{ころ}殺した
あと、そのハチを^み見つけても、^き気づかないふりをしている。
ぼくは、まだ^{なや}悩んでいる。

495

さとう じゅんこ
佐藤 淳子

みなさん、1から9の9つの数字の中から、好きなものを3つ紙に書いてください。その3つの数字を使ってできる、「一番大きな3けたの数字」は何ですか。「3けたの数字」というのは、例えば「145」「561」「978」など、3つの数字を並べてできる数字です。「一番大きな3けたの数字」が書けたら、次に、その3つの数字を使ってできる、「一番小さな3けたの数字」を書いてください。

例えば、1と5と9を選んだ場合について、考えてみましょう。1と5と9でできる「一番大きな3けたの数字」は何でしょうか。そう、「951」です。そして、「一番小さな3けたの数字」は、「159」です。

その「一番大きな数字」から、「一番小さな数字」を引きます。例えば、「951」から「159」を引くというのは、

「951-159」ですから、^{こた}答えは「792」になります。

^{つぎ}次に、この「792」にある3つの^{すうじ}数字、7と9と2に^{ちゅうもく}注目します。この3つの^{すうじ}数字を^{つか}使ってできる「^{いちばんおお}一番大きな3けたの^{すうじ}数字」は、「972」です。「^{いちばんちい}一番小さな3けたの^{すうじ}数字」は、「279」です。そしてまた、「^{いちばんおお}一番大きな^{すうじ}数字」から「^{いちばんちい}一番小さな^{すうじ}数字」を^ひ引きます。「972-279」ですから、^{こた}答えは「693」になります。

^{おな}同じことをもう^{いちど}一度やります。6と9と3でできる「^{いちばんおお}一番大きな3けたの^{すうじ}数字」は「963」です。そして「^{いちばんちい}一番小さな3けたの^{すうじ}数字」は、「369」です。「963-369」を^{けいさん}計算すると、「594」になります。

^{おな}同じことを^く繰り返して^{かえ}いくと、必ず「495」という^{すうじ}数字にたどりつきます。4と9と5でできる「^{いちばんおお}一番大きな3けたの^{すうじ}数字」は「954」、「^{いちばんちい}一番小さな3けたの^{すうじ}数字」は「459」ですが、「954-495=495」なので、この^{あと}後は、^{なんかいけいさん}何回計算し

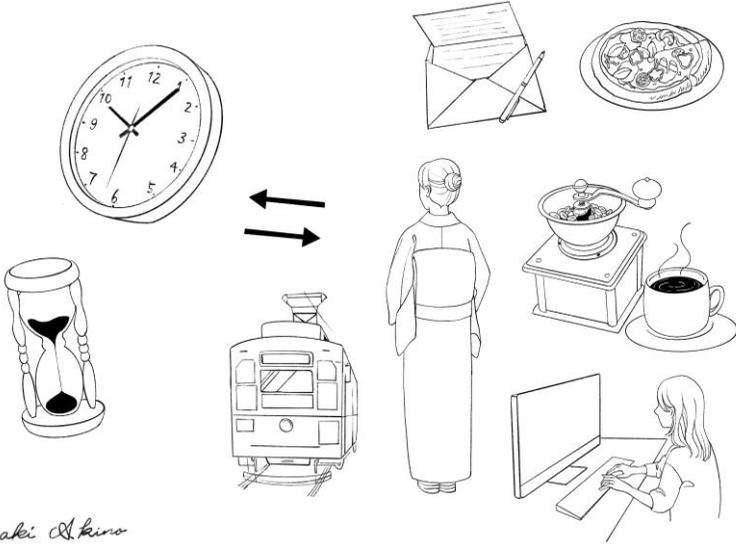
ても 495です。

さて、みなさんも最初に選んだ3つの数字を使って、
495にたどり着くかどうか試してみてください。最初にどの
3つを選んだとしても、何回か計算をすると、必ず495に
たどり着けるはずです。この495を「3けたのカプレカ数」
と言います。カプレカは、この法則を発見したインドの
数学者の名前です。

ちなみに、「4けたのカプレカ数」も存在します。興味が
ある人は、まず1から9の中から数字を4つ選んで、同じよ
うに計算を続けてみてください。必ず、同じ数にたどり着く
はずです。

じ かん こうかん
時間と交換

ふたくち わ き こ
二口 和紀子



Sasaki Akino

あさお けい ようふく ではなく、きもの きをき。きものをきている
と、とにかく苦しめて、つか しが きが じかん じ
間のロス。でも、にちじゅう しせい もきれいで、きもちもひき締
まる。

だい す にちよう び あさ
大好きなコーヒー。ある日曜日の朝、おいしいコーヒー
の の おも
が飲みたいと思った。コーヒー豆を挽いて、ゆっくりお湯を
そそ かお たの の
注いで、香りを楽しみながら飲んだ。コーヒーを飲むため
に、30分の時間のロス。でも、インスタントコーヒーより、
ずっとおいしい。そして、すこ しず じかん す
ずっとおいしい。そして、少しだけ、静かな時間が過ごせた。

れんらく はは てがみ か はは むらさき
いつもメールで連絡する母に、手紙を書いた。母は紫
いろ す むらさきいろ かみ えら てがみ か
色が好きだから、紫色の紙を選んだ。手紙を書きながら、
かん じ か き さいきん
漢字が書けなくなったことに気がついた。最近、パソコン
やスマホでただ かん じ えら じぶん て かん
やスマホで正しい漢字を選ぶだけなので、自分の手で漢
じ か かん じ しら か ぶん
字が書けない…漢字を調べながら書いたために、30分の
じかん ちい とき かぞく おも て はは す
時間のロス。でも、小さい時の家族の思い出や母が好き
なものを かんが い かんしゃ きも すこ
考えて、いつもは言わない感謝の気持ちを少し
か
書いた。

部下と一緒に、資料の作成をしなければいけなかった。

部下が書いた資料を読んで、コメントをして、部下に修正をさせる。そして、また、部下が書いた資料を読んで、コメントをして、部下に修正をさせる。同じことのくり返し。何度も資料の修正をするために、2日の時間のロス。自分一人で書くほうが早くて、ストレスも少ない。でも、部下の成長が見られて、新しい発見を与えてくれた。いい資料ができた。

毎日車で行くスーパーへ、路面電車で行ってみた。路面電車に乗るために、まず歩かなければいけない。そして、バスより遅い路面電車。走るスピードが遅いために、1時間の時間のロス。でも、ゆっくり外の景色が見られて、新しいお店も発見できた。そして、電車の中で、ほかの人の会話聞くのも楽しかった。

よる はん ぎ じ つく き じ はっこう
夜ご飯のピザを生地から作った。生地をこねて、発酵さ
せて、さいご や あら もの ふ かね
せて、最後に焼く。洗い物も増えたし、お金もかかった。
スーパーで買った れいとう のピザを や た じ かん
スーパで買った冷凍のピザを焼いて食べるより、2時間
の時間 のロス。パンみたいなピザだったけど、少しの
たっせい かん
達成感。

あえて じ かん が かかる ことを やって みた。 じ かん こう かん
あえて時間がかかることをやってみた。時間と交換して、
て い
手に入れたものがあった。

対話とは

ふたくち わ き こ
二口 和紀子

とやまけん とやまし ちゅうしん とやまじょうし こうえん
富山県富山市の中心に富山城址公園があります。こ
こうえん よこ まつかわ かわ むかし かわ
の公園の横に松川という川があります。昔は、川のそばに
まつ まつかわ なまえ
松がたくさんあったので、松川という名前がつけられまし
た。その後、第二次世界大戦のあとで、町の成長を願って、
かわ さくら う いま とやまし なか
川のそばに桜が植えられました。今では、富山市の中で
ゆうめい さくら めいしょ にほん めいしょ せん えら
も有名な桜の名所で、「日本さくら名所100選」に選ば
れています。



まつかわ りょうがわ さん
松川の両側には散
ぼ みち
歩のための道があり
ます。ここには、とやま
けんしゅっしん とやまけん
県出身や富山県に
す ちようこく か
住んでいる彫刻家の

さくひん なら しゃしん ちようこく ふたくちきんいち つく
作品が並んでいます。写真の彫刻は、二口金一さんが作

りました。タイトルは「対話」です。ニロさんはこの作品をつくったとき、「現代社会における不安な気持ち、人と人との関わり合いなど複雑な人間関係の中の対話を、人と鳥の姿を借りて表現してみました。石の上からはみ出した人は空間を大きく作って、人と離れたところに鳥を置きました。そして、人と鳥が向かい合っていないところに面白さがあるとと思います」と言いました。

対話の意味は、「向かい合って話すこと。二人の人がことばを交わすこと（『広辞苑』）」です。実は、この作品の彫刻家は私の祖父です。それで、この作品について、家族と対話をしてみました。



わたし さくひん おも
私：この作品についてどう思う？ どういう意味だと思おう？

おい こ かんが ひと まちが とり み
甥っ子：えっと、なんか考える人。間違えた。鳥と見つめ
あ
合っとする。

めい こ かん
姪っ子：「ははっ」て感じかな？

わたし かんが
私：もうちょっとよく考えて！

めい こ すわ じょせい
姪っ子：「いすに座る女性」は？ めっちゃよくない？

いもうと さくひん たいわ ことば
妹 1：この作品のタイトル対話だったよね？ 言葉じゃなく
たいわ いみ おも
ても、対話できるみたいな意味なのかなと思ったよ！

いもうと ひなた おも
妹 2：なるほど～！ 日向ぼっこしてるんかと思った！

わたし わたし し ひと とり き
私：私はタイトル知らなかったから、「人は鳥に気づいて
とり ひと き なかよ とり ひと
いなくて、鳥は人に気づいてて、仲良くなろうと鳥が人に
ちか いんしょう う
近づいている」って印象を受けた。

はは かあ じょせい ぼうし かん
母：お母さんは、女性の帽子のつばのキリっとした感じか
きび かん とり なご い ま
ら厳しさを感じて、鳥がいることで和やかさも入り交じっ
て、アンバランスを感じるかな。

ちち とり ひと かいわ
父：鳥と人は会話ができないが、ベンチのうえで、たがお互いの
きょり かん も
距離感を持つことで、たいわ対話をことできるきょうちよう事をとうじ強調し、とうじ当時
しゃかい な さくひん
の社会へのな投げかけたさくひん作品かな。

みな：お父さん、とう作品のさくひん解説かいせつ読んだねよ（わら笑）。

さて、みなさんは、このさくひん作品をみ見て、かんがどんなことをかんが考えま
したか？

不思議な眼鏡
—子供の視点について思うこと—

もり ゆうき
森 勇樹

これはもう10年くらい前の話だ。友人と電話で話して
いたときのことである。その友人は何年も前に結婚してい
て、ちょうどそのころ、6歳の娘さんと4歳の息子さんを育
てていた。

「二人もいると、子育てが大変だね」

そんな私の言葉に、彼女はくすくすと笑い出した。そして、
こんなエピソードを語ってくれた。

「おとといね、晩ごはん食べたあと、私は後片付けがあっ
たから、息子を一人でお風呂に行かせたの。それでね、
お皿を洗ってたら、急に後ろに誰か立ってるのに気がつ
いたのよ。振り向いたら、ニコニコと笑う息子が立ってた
んだけど、なんとびしょびしょのバスタオルを身体に巻き

つけていたのよ!」

わたし め まる かのじょ かお あと ふ ろ ば だい
私は目を丸くする彼女の顔と、その後、風呂場から台
どころ ぬ ゆか ひっし ふ かのじょ すがた そうぞう おも
所までの濡れた床を必死に拭く彼女の姿を想像し、思
わず^{わら}笑ってしまった。

「こ どもって なに をするか、ほんとう よ そく ふ か のう
子どもって何をするか、本当に予測不可能だね」

「ほんとう もうびっくりしちゃって、おも 思わず^{さけ}叫んじやったわよ。

『なんでこんなことしたのよ!』って」

すると、お母^{かあ}さんの目^めをじっと見て、彼^{かれ}はニコニコしながら
こた
らこう答えたそうだ。

「だってお風呂^{ふろ}があったかくて気持ちよかったから、いっしょに
連れて^き来たかったの」

その答^{こた}えに、私^{わたし}はおおわら
のあたたかさが、私^{わたし}の体^{からだ}や心^{こころ}にも伝わ^{つた}ってくるように感じ
た。

こ も わたし おもしろ ば めん
子^こを持たない私^{わたし}は、なかなかこうした面白い^{おもしろ}場面^{ばめん}に

で あ き かい
出 会 っ 機 会 が ない。で も 子 を 持 っ 友 人 から 似 た よ う な 話
を 聞 く こ と が あ る。

きゅう こ い
急 に 子 ど も が 言 う。

か あ でんちゅう な
「ねえねえ、お母さん！ 電柱が泣いているよ！」

み あ でんちゅう お あまみず
見 上 げ て み れ ば、電 柱 から ポ タ ポ タ と 落 ち る 雨 水。

きゅう こ い
急 に 子 ど も が 言 う。

み み あおぞら ふ
「見て見て！ 青空を踏んじやったよ！」

あしもと み みず うつ あおぞら
ふ と 足 元 を 見 る と、水 た ま り に 映 っ た 青 空。

つきよ なか いえじ いそ と き こ はな
月 夜 の 中、家 路 を 急 い て い た 時 に、子 ど も が 話 し か け
て くる。

つきさま いっしょ かえ
「ねえねえ、お月様がずっとついてくるよ。一緒に帰りたい
のかな」

ことば き こども う
こ ん な 言 葉 を 聞 い て い る と、子 供 は 生 ま れ な が ら に し て
しじん おも かれ わたしたちおとな
詩 人 じ ゃ な い か と 思 っ て し ま う。ま る で、彼 ら は 私 達 大 人 が
も とくべつ めがね せかい み
持 た ない 特 別 な 眼 鏡 で こ の 世 界 を 見 て い る よ う だ。し か し、

わたし おとな こども
私 たち 大人 も 子供 だ っ た ころ は、そん な 不 思 議 な 眼 鏡 を
も
持 っ て い た は ず だ。

ど こ で な く し て し ま っ た の だ ろ う。そ の 不 思 議 な 眼 鏡 に つ
い て 考 え る こ と は、私 達 大 人 を な つ か し く て、そ れ と 同 時
に、さ み し い よ う な 気 持 ち に さ せ る。

ちい せき よわ
小 さ く 弱 い も の と さ れ て い る 子 供 は、大 人 が 守 る べ き 対
しやう ふ つう ひと かんが
象 だ と 普 通 の 人 な ら 考 え る だ ろ う。し か し 実 際 に こ の 世 界
を 守 っ て い る の は 不 思 議 な 眼 鏡 を 持 っ た 子 供 たち な の か
も し れ な い。

そん な 子 供 たち に 守 ら れ た 世 界 で、私 たち 大 人 も あ の
ふ し ぎ め が ね さ が
不 思 議 な 眼 鏡 を 探 し て み よ う。き っ と そ れ ほ ど 遠 く で な く し
て し ま っ た わ け じ ゃ な い。そ れ は 春 の 木 漏 れ 日 や 雨 上 が り
に か か る に じ お な わ た し
虹 と 同 じ ぐ ら い、私 たち が い つ も は 気 に し な い よ
う な 場 所 に、今 も ひ っ そ り と 存 在 し て い る。

ゆめ み
夢を見る

もり ゆうき
森 勇樹



Sasaki Akino

さいきん ねむ
最近、眠い。

もう40^{だい}代になったというのに、よく^{ねむ}眠る。だいたい、8時

^{かん}間ぐらい。それでも^{ねむ}眠い。

^こ子どもじゃないんだから、と自分でも^{じぶん あき}呆れてしまうが、そ

れでも8時間以上^{じかん いじょう ね}寝ている。そして、それでも^{ねむ}眠い。

^{やす ひ あさはや お}休みの日、朝早く起きなくてもいい日は^{ひ しあわ}幸せだ。いつも

より^{おそ}遅い時間まで^{じかん}寝て、^ね気持ちよく^{きも}起きる。反対に、平日は^{はんたい へいじつ}

まだ起きたくない時間にだいたい目覚まし時計が鳴る。そして、起こされるのだ。

そんな私は時々、夢を見る。細部まで覚えている場合もあるが、たいていは起きたときには忘れてしまっている。

でも、小さいころ、よく見ていた夢がある。それはこんな内容の夢だ。



私はまだ幼稚園に通う5歳の子どもだ。私が住んでいた家の裏には大きな山があった。夢の中で、私は一人でその山の奥へと入っていく。

幼いころはよく遊んだ山だが、夢の中では、今まで見たこともないような奥まで進む。太陽の日差しは高い木々に邪魔されて、あたりは暗い。そして、私は、山の奥にある洞窟にたどり着いた。

私はその洞窟へと近づいていく。中は岩場だ。その岩

ば した ほう お ひろ ば
場をゆっくり下の方へと降りていく。そこはちょっとした広場
になっている。

なんびき へび わたし め はい
そこには何匹か蛇がいた。そして、私の目に入ってきた
のは、全身が白い蛇だ。あまりにも色が白いので、暗い広
ば なか ひかりかがや み
場の中で、そこだけが光輝いているかのように見えた。

じっさい わたし へび す みち ま
ちなみに、実際の私は蛇が好きじゃない。もし道の真ん
なか へび はし に へび こわ
中に蛇がいたら、走って逃げるだろう。それぐらい、蛇が怖
い。

ゆめ なか わたし へび しず み へび
でも、夢の中の私は、蛇をずっと静かに見ている。蛇は
おとなしく、じっとしていた。

わたし ひろ ば さんさく いわ ば かげ ほん ざっし
私は広場を散策する。そして、岩場の陰に、本や雑誌
お み なか いっさつ ほん て
が置いてあるのを見つけた。その中から一冊の本を手
と
取る。

ほん も わたし しろ へび ある
本を持って、私はあの白い蛇のところへと歩いていく。
へび
蛇はおとなしく、じっとしていた。私は、本を真ん中あたりの

ページで開き、それで蛇をはさんでしまう。そう、まるでサン
ドイッチのように。そして、本をしっかりと閉じる。私は本の
中で、蛇の体がかはさまっているのを感じている。それでも、
本をしっかりと閉じ続けた。

そして、しばらくしてから本を開いた。本の中で、その白
い蛇は、本のページのように薄くなって死んでいた。



そして、私は目が覚める。

この夢は珍しく、今でも覚えているものだ。小さいころ、
よく見ていた、あるいは何回か見て、とても面白い夢だった
ので、今も印象に残っているだけかもしれない。今でも、こ
の夢のことを思い出すとき、手に取った本の重さ、それで
蛇をはさんだときの感触が記憶に残っている。そんな、
生々しい印象を持つ夢もある。

人間の夢はその人の頭の中の考えや希望などを表し

ているという専^{せんもん}家^かもいる。また、見^みた夢^{ゆめ}で今^{いま}の状^{じょうきょう}況^{しょう}や将

来^{らい}を占^{うらな}う「夢^{ゆめ}占^{うらな}い」というものも存^{そんざい}在^{ざい}するそう^{そう}だ。

私^{わたし}の^み見^みた夢^{ゆめ}は何^{なに}を意^い味^みして^いたの^のだ^だら^らう^うか。お^か金^ね持^もち

に^にな^なる^るとい^いう^う予^よ言^{げん}だ^だつ^つたら、い^いい^いな^なと考^{かんが}え^える。で^でも、実^{じつげん}現^{げん}し

て^てい^いない^{ない}と^とこ^ころ^ろを^を見^みると、そ^そう^うで^では^はな^ない^いの^のだ^だら^らう。

かこさとしの STEAM^{えほん}絵本 —かこさとし『地球-その中をさぐろう』—

かどくら まさみ
門倉 正美

近年^{きんねん}、理科教育^{り か きょういく}では、理科^{り か}と数学^{すうがく}を別々に教えるだけ
ではなく、総合的^{そうごうてき}に教えるようになりました。そうした理系^{り けい}
の総合的^{そうごうてき}教育^{きょういく}は、科学^{か がく} (Science)、技術^{ぎじゆつ} (Technology)、
工学^{こうがく} (Engineering)、数学^{すうがく} (Mathematics) を統合^{とうごう}してい
るので、STEM^{きょういく}教育^よと呼ばれています。最近^{さいきん}では、それらに
芸術^{げいじゆつ} (Art) を加^{くわ}えて、STEM^{きょういく}教育^よにしたほうがいい、とも
言^いわれています。

STEM^{きょういく}教育^よは、たくさん^{まな}のことを学^{まな}ぶ、たいへん^{か もく}な科目^{か もく}
と思う^{おも}かもしれません。しかし、実^{じつ}は身^み近^{ぢか}なところ^{き がる}で気^き軽^{がる}に、
STEM^{きょういく}教育^よに接^{せつ}することができ^{でき}ます。それがかこさとし
(か こ さ と し) という絵^え本^{ほん}作^さ家^かの絵^え本^{ほん}です。かこさとしは、
こ ども たち に 大^{だい}人^{にん}気^きの絵^え本^{ほん}を 大^{だい}くさ^ん書^かいてい^います。その

なか
中でも、かこさとしが得意なのは、科学のテーマを絵本に
した科学絵本です。かこさとしは人生の後半に、3冊の科
がく えほん たいさく おお ねんげつ か
学絵本の大作シリーズを多くの年月をかけて描きました。
それが、『海』（1969年）、『地球』（1975年）、『人間』
(1995年)です。この3冊は、STEAM教育のすぐれた教
ざい
材です。

ここでは、『地球』を紹介しましょう。『地球』のテーマは、
「その中をさぐるう」です。これまでの地球についての本で
は、地球の中がどうなっているのかは、あまり書かれてきま
せんでした。その理由のひとつは、地球の内部についての
がくもんてきけんきゅう すく
学問的研究が少なかったからです。かこさとしは、最新の
がくもんけんきゅう えほん か
学問研究をもとに、この絵本を描いています。

ところで、地面の下にはどんなものがあるのでしょうか？
地下にあるものを、2分間でできるだけ多くあげてみてくだ
さい。いくつあげることができましたか？

くさ き ね す どうみん あな
草や木の根、アリの巣、クマの冬眠の穴、モグラのトンネル、虫の卵や幼虫、下水道、ガスパイプ、電線、家やビルの土台、地下室、ビルの地下の階、地下街、地下鉄、地下通路など、実にたくさんのもものが地下にあります。これらは、自然のものと人間が作ったものに分けることができますね。

し ぜん せいかく えが せいぶつがく しょくぶつがく どうぶつがく
自然のものを正確に描くには、生物学、植物学、動物学、昆虫学、気象学、地球科学、天文学などの知識が必要です。人工のものを正確に描くには、建築学、土木工学、農学、生活学、風景学、交通学、都市学などの知識が必要です。そして、それらの自然物や人工物の世界を見て、それらのつながりがよく分かり、絵として楽しめるように描く芸術（Art）が必要です。かこさとしの絵本はまさにSTEAM教育の教材なのです。

ち きゅう おおがた え ほん さ ゆう まい え
『地球』では、大型絵本の左右2ページを1枚の絵として、25枚の絵で地面の上の世界と下の世界が同時に描

かれます。地上の世界では2年間の季節が過ぎていきま
すが、その間、地下の世界は地上のように変わりません。
植物が地下にひろげた根によって支えられているように、
地下の世界が安定していることによって、地上の世界が
支えられているのです。

しかし、地下の世界も、地震のときに気づくように、実は
ゆっくりと動いています。そして、さらに地球の内部深くに
いくと、半熟の卵の黄身のように超高熱で溶けたどろど
ろの火の玉があるのです。

絵本の終わりに、細かい字で3ページもある「あとがき」
があります。この「あとがき」を丁寧に読むと、この絵本の
絵の細かい部分にたくさんの知識が描きこまれていること
が分かるでしょう。

『海』、『地球』、『人間』の3冊シリーズは内容が多す
ぎて、ちょっとたいへんだと思うかもしれません。そんな人に

は、かこさとし『かわ』（1966^{ねん}年）をすすめます。この^{ちい}小さな^{えほん}絵本1冊^{さつ}を^よ読むだけで、^{じゅうぶん}十分にSTEAM教育^{きょういく}にふれることができるでしょう。

<かこさとし^{かこさとし}（加古里子^{えほん}）の^{しょうかい}絵本の紹介>



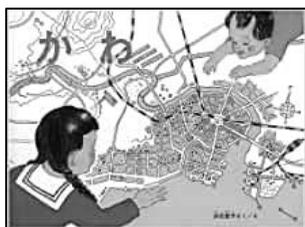
『^{うみ}海』
福音館書店



『^{ちきゅう}地球』
福音館書店



『^{にんげん}人間』
福音館書店



『^{かわ}かわ』
福音館書店

のろのろ競争きょうそう

かどくら まさみ
門倉 正美

【問題もんだい】

アラビアのある大金持ちおおがね もが2人ふたりの息子むすこを呼んで、こう言
いました。

「砂漠さばくの真中まなかのオアシスまで、きみたちの馬うまで競走きょうそうしな
さい。どちらか、勝ったほうの馬うまの持ち主もぬしに、私わたしが死んだ
後あと、私わたしの全部ぜんぶの財産ざいさんをあげることにしよう。ただし、競走きょうそうと
いっても、ふつうの競走きょうそうではないよ。遅い方おそほうの馬うまが勝ちに
なる、のろのろ競走きょうそうだ。私わたしはオアシスに先さきに行いって、待まって
いる。どちらの馬うまが遅おそく着ついたかがわかるようにね」

2人ふたりの息子むすこはそれぞれの馬うまに乗のって、のろのろ競走きょうそうを始
めました。しかし、砂漠さばくの太陽たいようはひじょうに暑あつくて、息子むすこた
ちはとても疲つかれてしまいました。これでは、もう2人ふたりともものろ
のろ競走きょうそうを続つづけることはできません。

そのとき、そうした息子たちに出会った人が、息子たち
からのろのろ競走の話^{きょうそう はなし き}を聞いて、すばらしい考^{かんが}えを2人に
話^{はな}しました。

それを聞いた2人は、その考^{かんが}えをとりいれることにしまし
た。そして、今^{こん}度は、ふつうの競走^{きょうそう}のように馬^{うま}をできるだけ
速^{はや}く走^{はし}らせたのです。

さて、息子^{むすこ}たちはどのような考^{かんが}えをとりいれたのでしょ
うか？

(解答^{かいとう}は次^{つぎ}のページ)

かいとう
【解答】

むすこ じぶん の うま
息子たちは、自分たちの乗っていた馬をとりかえたので
す。

きょうそう じぶん うま あいて うま おそ っ
のろのろ競走とは、「自分の馬が相手の馬よりも遅く着
か
ければ勝ち」という競走です。ということは、「相手の馬が自
ぶん うま はや っ か
分の馬よりも速く着けば勝ち」なので、馬をとりかえ
て、それぞれが相手の馬に乗れば、ふつうの競走になるの
です。

はじめ良ければすべてよし

さ さ き りょうぞう
佐々木 良造

このお話は、Uber もない、スマホもない時代のお話
です。

私はマレーシアのクアラルンプール (Kuala Lumpur, KL)
に住んでいました。長い休みのとき、クアラルンプールから
タイのバンコクへ旅行に行こうと思いました。

バンコクへ行くには、まず、私の住んでいるところからタ
クシーに乗って、KL セントラル駅へ行きます。そして、KL セ
ントラル駅からクアラルンプール国際空港へ行く電車に乗
ります。そして、空港から飛行機に乗って、タイのバンコクへ
行きます。

「タクシーに乗って、電車に乗って、飛行機に乗って、タ
イへ行く」と聞いたら、特に大変なことはないと思うかもし
れません。しかし、Uber もない、スマホもない時代は、最初

の「タクシーに^の乗る」の^{いちばんたいへん}が一番大変だったのです。

タクシーに^の乗ろうと思^{おも}っても、Uber のようにタクシーを呼^よぶことはできません。ですから、道^{みち}を走^{はし}っているタクシーを見^みつけたら、手^てを^あげてタクシーを^とめます。止^とまってく^れるタクシーもあれば、止^とまってく^れないタクシーもあります。

タクシーが止^とまったら「●●まで^いきたいんだけど、行^いける？」とタクシーの^{うんてんしゅ}運転手^きに聞^きかなければなりません。私^{わたし}の行^いきたいところとタクシーの^{うんてんしゅ}運転手^いの行^いきたいところが^{はんたい}反対^{みち}だったり、道^こが混^こんでいたりすると、断^{ことわ}られることも珍^{めずら}しくありませんでした。

私^{わたし}が^{ちい}小さな^もスーツケース^{さが}を持ってタクシーを探^{さが}している^{いちだい}と、一^と台のタクシーが止^とまりました。「KL セントラル^{えき}駅^{まで}まで」^いと言うと、タクシーの^{うんてんしゅ}運転手^{てまね}が手招^のきをしました。乗^のっても^いいようです。

私^{わたし}がタクシーに^の乗^のってタクシーの^しドア^しを閉^しめたとき、タク

シーの^{うんてんしゅ}運転手が^{さが}タクシーを探している^{じょせい}女性を見つめました。

タクシーの^{うんてんしゅ}運転手とその^{じょせい}女性はちょっと^{はなし}話をしました。その

^{じょせい}女性も^{わたし}私と同じように^{ちい}小さい^もスーツケースを持っていますし

た。きっと、KL ^{えき}セントラル駅へ行って、^{くうこう}空港へ行くところだっ

たのでしょ。

タクシーの^{うんてんしゅ}運転手と^{じょせい}女性が^{すこ}少し^{はなし}話をしました。そして、そ

の^{じょせい}女性もタクシーに^の乗ることになりました。^{ぜんぜん}全然知らない^{ひと}人

と同じ^{おな}タクシーに^の乗ることがあると^き聞いたことがありました。

^{わたし}私は「^{えき}駅までいっしょに^い行くんですね」と^{おも}思いました。

タクシーは10分^{ぶん}ほど^{はし}走りました。もう^{すこ}少して KL セントラ

ル^{えき}駅に着くところで、^{わたし}私は「^{りょうきん}タクシーの料金はどうするんだ

ろう。2人^{ふたり}で半分^{はんぶん}ずつかな」と^{おも}思いました。駅に着くと、メー

ターは「7.00」、7リング(Ringitt)でした。タクシーの

^{うんてんしゅ}運転手はメーターを見て、「^{ひとり}1人5リング!」と^い言いました。

タクシーに^の乗っていた^{じょせい}女性と^{わたし}私は、メーターより2リング

やす
安くタクシーに乗ることができました。タクシーの運転手は

メーターより3リング多くもらえました。1人だけ得する人も

いないし、1人だけ損する人もいないし、みんな得しました。

わたし
私はタクシーの運転手の計算の速さにびっくりしました。

そして、一番大変な移動が気持ちよく終わったので、私

は「楽しい旅行になりそうだ」と思いました。

Email アドレスはもう一つの^{ひと}名前^{なまえ}

さ さ き りょうぞう
佐々木 良造

だいがく ねんせい けんきゅうしつ りゅうがくせい
大学3年生のとき、研究室にアメリカからの留学生が
いました。なまえ い せ たか あか
名前はエレナと言いました。背が高くて明るい
じょせい
女性でした。

あるとき、とつぜん「りょうぞう、りょうぞうのなまえ かんじ
う書くの?」と言って、「両象」と書いた紙を見せました。私
のなまえは「ささき りょうぞう」です。たしかに「りょうぞう」は
「りょう ぞう」と読みますが、「象2頭」は変な名
まえ
前です。

エレナは「はっはっは! both (両:りょう) elephant (象:
ぞう)」と言って笑いました。わたし こ へん な
私は「子どもにそんな変な名
まえ おや おこ み おもしろ
前をつける親はいない!」と怒りましたが、よく見ると面白
いなまえ おも
名前だな、と思いました。

それから、インターネットでログイン ID をつくったり、Email

アドレスを作ったりするとき、“both elephant”を使いました。
“sasaki”や“ryozo”というIDを使いたいと思っても、
「その名前はすでに使われています」という画面が出ますが、
“both elephant”なら大丈夫です。

しばらく“both elephant”を使っていましたが、2005年にマレーシアに行ったとき「“both_elephant”をマレーシア語にしたらどうなるんだろう」と思って英馬辞典を調べたら、“both”は“kedua”、“elephant”は“gajah”でした。それで、“both elephant”から“keduagajah”に変えました。

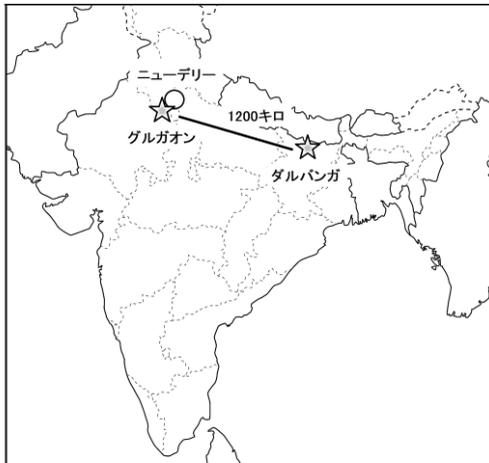
マレーシア語やインドネシア語のわかる学生が、私のEmailアドレス(keduagajah@)を見ると笑います。やっぱり変な名前のようなのですが、わたしはとても気に入っています。

じてんしゃ 自転車のジョティさん

よしかわ とおる
吉川 達

ジョティ・パスワンさんは、インドに住んでいる15歳の女性です。彼女は2020年5月に有名になりました。これは、ジョティさんと、彼女のお父さんの話です。

ジョティさんはダルバンガという町に住んでいました。ジョティさんのお父さんは、グルガオンという町に住んでいました。グルガオンは、ニューデリーのそばの町です。ダルバンガからグルガオンは、とても遠いです。

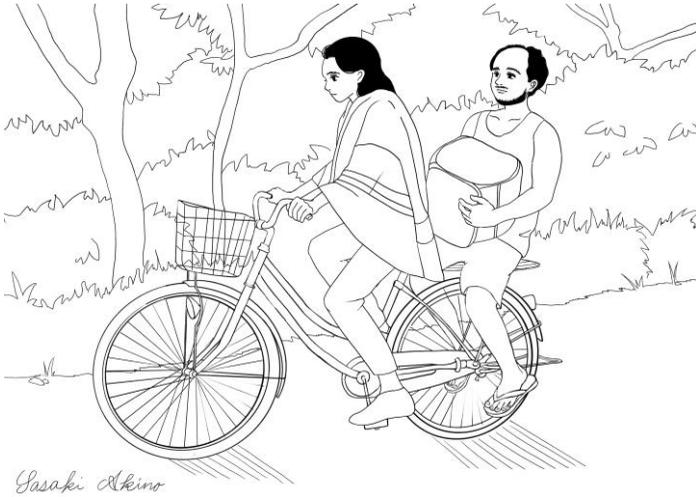


ジョティさんのお父^{とう}さんは、グルガオンで三輪^{さんりん}タクシーの
運転^{うんでんしゅ}手^てをしていました。ところがお父^{とう}さんは、仕事^{しごと}のときに
事故^{じこ}にあいました。そしてけがをしました。ジョティさんは、
お父^{とう}さんがけがをしたことを聞^ききました。そして心配^{しんぱい}になり
ました。だから、ジョティさんは、ダルバンガからグルガオン
に行^いきました。そしてお父^{とう}さんの世^せ話^わをしました。

ジョティさんがグルガオンにいるときに、新型^{しんがた}コロナウイ
ルス (COVID-19) が広^{ひろ}がりました。そしてお父^{とう}さんは、仕
事^{ごと}がなくなりました。仕事^{しごと}がありませんから、ふたりは故郷^{こきょう}
のダルバンガに帰^{かえ}ろうと思^{おも}いました。でも、コロナなので、
バスや電^{でん}車^{しゃ}がありません。だからジョティさんは、自^じ転^{てん}車^{しゃ}で
帰^{かえ}ろうと思^{おも}いました。

中^{ちゅう}古^この自^じ転^{てん}車^{しゃ}は1000ルピー (約^{やく}1400^{えん}円) でした。ふ
たりはお金^{かね}がありませんから、お金^{かね}を借^かりて、その自^じ転^{てん}車^{しゃ}を
買^かいました。ジョティさんのお父^{とう}さんはけがをしていますか

ら、ジョティさんが自転車^{じてんしゃ}をこぎました。そしてお父さん^{とう}は、
後ろ^{うし}にの^のりました。



インドはとても暑^{あつ}いです。温度^{おんど}は40度^どぐらいです。ジョ
ティさんは、がんばって自転車^{じてんしゃ}をこぎました。ときどきトラッ
ク^のに乗せてもらいました。夜^{よる}は、ガソリンスタンド^ねで寝ました。
そしてジョティさんとお父さん^{とう}は、1週間^{いっしゅうかん}後に故郷^ごのダル
バンガ^{こきょう}につきました。ジョティさんは、とても疲^{つか}れました。だ
から故郷^{こきょう}に着^ついたあと、しばらく病^{びょう}気^きになりました。

ジョティさんは、自転車じてんしゃの後ろうしにお父さんとうを乗せて、
1200kmキロ走りました。1日いちで150kmキロぐらいです。とても
大変たいへんなことから、インドのメディアや世界せかいのメディアが
ジョティさんのことをニュースにしました。ジョティさんは、
有名ゆうめいになりました。

国くにの自転車じてんしゃチームがジョティさんに「選手せんしゅになりませんか」と言いました。ジョティさんは、「自転車じてんしゃもいいけれど、
勉強べんきょうがしたい」と答こたえました。今いま、ジョティさんは、何なにをして
いるのでしょうか。

バンクシーのいたずら

よしかわ とおる
吉川 達

2018年^{ねん}10月^{がつ}5日^か。

ここはロンドンの有名^{ゆうめい}
なオークション会場^{かいじょう}、サザ
ビーズ。今日の注目^{ちゅうもく}の
一品^{いっぴん}は、バンクシーという
アーティストの作品^{さくひん}だ。バ
ンクシーという名前^{なまえ}はニック
ネームで、彼^{かれ}（彼女^{かのじょ}か



もしれないが、ここでは彼^{かれ}としよう)の本名^{ほんみょう}も、どんな人^{ひと}か
もわからない。生まれた場所^うはイギリスのブリストルという
町^{まち}だと言^いわれているが、それも本当^{ほんとう}かどうかはわからない。
彼は町^{まち}に出て、建物^{たてもの}や電車^{でんしゃ}の壁^{かべ}に絵^えを描^{えが}く、ストリート
アーティストだ。町^{まち}の中^{なか}に絵^えを描^{えが}くので、人^{ひと}に見^みられそうな

のだが、彼はまるで忍者のように絵を完成させて、去って
いく。だから、バンクシーの姿をだれも見ることがない。バ
ンクシーは存在が謎に包まれた正体不明のアーティストな
のである。

今日はそのバンクシーの作品の一つがオークションに
出されるといふことで、オークション会場はにぎやかだった。
今回出される作品は、「風船と少女」。バンクシーが
2002年ごろにロンドンの町の壁に描いたものと同じもの
をキャンパスに描いたものだ。

いよいよオークションが始まった。

「15万ポンド」

「20万ポンド」

「60万ポンド・・・」

どんどん値段が上がっていく。

「100万ポンド!」

タンッ! と、競売人のハンマーの音がなった。バンクシーの絵は、104万2000ポンド(約1億5500万円)で落札された。落札と同時に、会場から歓声と拍手が起きる。客の多くは、バンクシーの絵と反対側にいる競売人の方をみていた。そのとき、

ピーピーピーピー……

警報器のような音がする。

一人の客が目を丸くしてバンクシーの絵を見ている。そのうち、二人、三人とほかの客も気がついて、バンクシーの絵をじっと見る。

「あああああ」

こえ ならない 声 が出て 出る。なんという こと だろう。美しい 額
はい に入った バンクシー の 絵 が、まるで シュレッター に かけられ
た ように 切られ ながら 額 から 出て くる ではないか。状況 に
き が ついた 大勢 の 客 が その 様子 を 見て いた。しかし、みん
なが 凍った ように 動け なくなり、絵 が 切られて いく 様子 を た
だ 眺める だけ だった。

その とき、絵 が 止まった。バンクシー の 絵 は、下半分 だけ
き 切られた 状態 で 残った。そして ようやく 魔法 が 解けた よう
に オークション の スタッフ が 動き 出し、半分 切れた バンク
シー の 絵 を 急いで 奥 の 部屋 に 持って 行った。

どうやら 額 に 仕掛け が して あり、絵 が 落札 された と 同時
に シュレッター が 動き 出す ように なって いた ようだ。もちろん
そうなる ように 準備 したのは、バンクシー だ。絵 が 機械 で
き 切り 裂かれる まで が 彼の 作品 で、それは、オークション で
いちぶ ひと だけで アートの 価値 が 決められる こと に対する、

かれ
彼からのメッセージだったのだろう。

え はんぶん き
絵が半分まで切れたところで仕掛けが止まったのは、
き かい こ しょう
機械の故障だったようだ。これはバンクシーにとって予
そうがい
想外だっただろう。ただ、オークション会場にいた人も、その
み わたし
ニュースを見た私たちも、バンクシーのいたずらにはまって
たし
しまったことは確かである。

はんぶん き さ え あい ばこ なか あたら
半分切り裂かれた絵は、「愛はゴミ箱の中に」という新
しいタイトルが付けられた。そして、そのままオークションで
らくさつしゃ こうにゆう え
の落札者が購入した。このことがあってこの絵はさらに
か ち あ
価値が上がったということである。

バンクシーはどう思っているだろうか。

ちよしゃしょうかい
著者紹介

げんだいしゃかいさいこう
<現代社会再考>

ささき みずえ
○ 佐々木 瑞枝

じんせい たび だいがく そつぎょう とおかご
人生は旅そのものです。大学を卒業して10日後に
けっこん ふたり むすめ かあ しあわこそだじだい
結婚し、二人の娘のお母さんとして幸せな子育て時代を
す さいとき えいじ
過ごしました。42歳の時、Asahi Evening News (英字
しんぶん まいしゅう
新聞)のコラムリストになり毎週 Japanese Naturally とい
うコラムを書き、11年間続けました(1985年9月～1996
ねんがつ あいだ だいがく りゅうがくせい にほんご にほんじじょう
年9月)。その間に大学で留学生に日本語・日本事情を
おし にほんじん にほんご きょうじゅほう おし にほんご
教えたり、日本人に「日本語教授法」を教えたり、日本語
のテキストを書いたり、日本の中学生の国語の教科書に
エッセイをか いま たび つづ
を書いたりしました。今も旅は続いています。

ホームページ <http://www.nihongonosekai.com>

にしぐち こういち
○ 西口 光一

にほんご おし しごと はじ ねん
日本語を教える仕事を始めて、もう40年になります。さ
がくせい きょうかしょ きょういくほうほう
まざまな学生、さまざまな教科書、さまざまな教育方法を
けいけん きょうざい きょうかしょ か
経験してきました。教材や教科書もいろいろ書きました。そ
いっぱう にほんご きょういくがく けんきゅう
して、その一方で、日本語教育学の研究もしてきました。
じっさい にほんご きょういくがく い だい に げんご きょういく
実際には、日本語教育学と言うよりも、第二言語教育の
がく がく ひと げんご し
ためのことば学です。ことば学というのは、人の言語の使
ようほうほう ぶんか げんじつ いしき じこ けんとう
用方法から、文化、現実、意識、自己などを検討し、またそ
してきはったつ けんきゅう ぶん や
れらの史的発達を研究する分野です。

おくの ゆきこ
○ 奥野 由紀子

げんご とお せかい へいわ わたし かよ
「言語と通して世界の平和を」これは私が通っていた
だいがく こうしゃ きざ にほんご きょうし
大学の校舎に刻まれていたメッセージです。日本語教師
わたし にほんご なか いろいろ くに がくせい いっしょ
の私は、日本語のクラスの中で色々な国の学生と一緒に、
せかい かんが もんだい いっしょ かんが
世界で考えなければならない問題を一緒に考えてみよ
おも ひと ひんこん ひんこん げんいん
うと思いました。その一つが「貧困」です。「貧困」の原因
さまざま くに もんだい かいけつ
は様々ですが、どの国にもある問題です。また、その解決
うご ひとびと みな いっしょ じぶん
のために動いている人々もいます。皆さんと一緒に自分に
なに かんが
何ができるのか考えていけたらうれしいです。

○ 松田 真希子

わたし だいがく にほんご おし しごと
私は大学で日本語を教える仕事をしています。

いえ だいす こ とき やま き あつ いえ つく
家が好きで、子どもの時は山の木を集めて家を作っ
あそ ちち いえ つく しごと わたし いえ
て遊んでいました。父は家を作る仕事をしていて、私の家
には父が作ったテーブルやドアがありました。私はものを
つく じょうず
作るのは上手じゃなかったの、家を作る仕事はしない
いえ み す せんせい
で、家を見ることが好きな先生になりました。

○ 門倉 正美

だいがく せんせい ぜんはん てつがく こうはん にほんご おし
大学の先生として前半は哲学、後半は日本語を教えて
いました。ずっと言葉の働きに興味をもってきました。学ん
ことば はたら きょうみ まな
でいる言葉になじむための有力な方法はたくさん読むこと
ことば ゆうりよく ほうほう よ
です。「たくさん読む」ことの中に、読む量だけでなく、自分
なか よ りょう じぶん
に役立ついろいろなものが気軽に読めること、友だちと
やくだ きがら よ とも
いっしょに読むなど、いろいろな読み方ができることも含め
たいと思っています。日本語を「たくさん読む」ことによって
おも にほんご よ
あなたの世界がゆたかにひろがることを目指しましょう。

○ 佐々木 良造

母の話によると、私は小さいときから、おもちゃや時計を分解するのが好きだったそうです。中学生のころ、アマチュア無線の免許を取りました。それから、部品を集めてラジオを作ったり、電子工作をしたりしていました。また、新しい技術にも興味を持ち、衛星放送のアンテナを設置したり、ワープロを買って日記を書いたりしていました。機械は自分のおこづかいやお年玉を貯めて買いました。

新しい技術、新しい機器によって、生活が、社会がどのように変わるか、いつも楽しみにしています。

○ 吉川 達

大学時代に日本語教育とバイクが好きになって、それからずっとこの二つを続けています。よく「バイクは危ない」と言います。確かにそうです。危ないのに乗りたくなる。目的地がなくても、走ることを目的に乗り。人はなぜバイクに乗りのでしょうか。それを考えると、バイクはけっこう哲学的な乗り物です。

<日本語ちょっとストーリーズ>

○ 佐藤 淳子

大学などで日本語を教えながら、言葉を教えることや学ぶことについての研究もしています。大きなバックパックだけを持って、いろいろなところに旅行するのが好きです。言葉が全然わからない国に行くこともあります。どの国に行くときも、「ありがとう」の意味の言葉だけは覚えてから行きます。

○ 二口 和紀子

日本語教師をしています。教えることも好きですが、自分が知ることも好きです。着物が好きなので、自分で着たり、他の人に着せたりしています。特技は、焼き魚や煮魚をととてもきれいに食べることです。

○ 森 勇樹

わたし いま とうきょう にほんご おし
私は今、東京で日本語を教えています。

ちい さいころは、ぼんやりした子どもでした。がっこう から 家に
帰るのに、他の子どもの2倍ぐらい時間がかかる子どもで
した。きんじょ のひと から「あの子、また道でぼんやりしていたよ」
と母に知らせが来るぐらいでした。おとな になって、あまりぼ
んやりしなくなりました。でも、ぼんやりしているときのほう
が、おもしろ アイデアが 出 てきます。ここに書いたものは、ぼ
んやりしているとき おも 思いつきました。

<イラスト>

○ 藤村 日向子 (表紙,裏表紙, p.27,28,29,37,63,64,74,85,116)

だいがくせい とき せいようかい が べんきょう あぶら え か
大学生の時に西洋絵画の勉強をしました。油絵を描く
のが好きです。いま こうこう で びじゅつ おし
今は高校で美術を教えています。

○ 佐々木 朗乃 (p.80,92,114)

さ が だいがく だいがく いん がくせい あぶら え せんこう ふ だん
佐賀大学大学院の学生です。油絵を専攻し、普段は
しょくぶつ ふうけい をメインに ざくひん せいさく
植物や風景をメインに作品を制作しています。

たどくのひろば

[発行日] 2022年12月1日

[発行者] 多読研究チーム

吉川達・門倉正美・佐々木良造

[印刷] サガプリンティング

非売品

本冊子は、科学研究費助成事業「日本語教育における多読の環境整備と実践、効果測定についての研究（基盤B：課題番号18H00677，代表：吉川達）」の助成を受けて作成しました。

本冊子に関するお問い合わせは、tadokunohiroba@gmail.com へご連絡ください。

